文部科学省委託事業

薬学教育協議会フォーラム 2011

# 全国学生合同ワークショップ
# 報告書

ー実務実習を通して印象に残っていることー

2011 年 2 月 12 日（土）

慶應義塾大学芝共立キャンパス

全国学生合同ワークショップの開催概要

今年度初めて全国で、薬学共用試験に合格した 6 年制一期生を対象に、実務実習モデル・コアカリキュラムに基づいた病院実習と薬局実習が実施された。実務実習モデル・コアカリキュラムの作成を始め、病院・薬局での受入・指導体制の構築は、これまで大学教員と指導薬剤師が協力して行ってきた。初めての長期実務実習を振り返るに際し、直接指導に当たった薬剤師や大学教員の意見は重要であるが、学習の主体者である学生の意見を聴くことは必須である。各大学や地区調整機構では、実習終了後、学生を対象としたアンケート調査などが行われている。

薬学教育協議会においても、文部科学省委託事業の一環として「薬学教育協議会フォーラム 2011」を「初年度実務実習の成果と課題」をテーマに開催することとなった。各大学における実務実習の実施状況はポスター発表を通じて情報の共有を図ることとした。また、「初年度実務実習の成果と課題」を考えるためには、実習を経験した学生達から直接意見を聴くことは重要と考えた。これまでは全国の大学教員と薬剤師がワークショップ形式で実務実習の実施体制構築について協議・提案してきたが、全国の学生が集まって協議する機会はなかった。そこで、実務実習を終えた学生が全国から集い、「実務実習の成果と課題」についてグループ討議を行うワークショップを企画した。

各大学に学生参加者の派遣を依頼したところ、66 大学から 90 名の学生が参加した。90 名中 81 名は病院実習と薬局実習の両実習を終えており、6 名は病院実習のみ、3 名は薬局実習のみを終了していた。そこで、全体を 45 名ずつの 2 チームに分け、Ⅰチームは病院実習、Ⅱチームは薬局実習をテーマとした。各チームは 1 グループ 9 人ずつの 5 グループに分かれて小グループ討議を行うこととした。

学生合同ワークショップのテーマは「実務実習を通して印象に残っていること」とし、各グループで他己紹介を行って昼食をとった後、小グループ討議を開始した。Ⅰチームは「病院実習を通して印象に残っていること」、Ⅱチームは「薬局実習を通して印象に残っていること」について KJ 法に従って文殊カード(三連の切り離し可能なカード)と模造紙を用いて抽出･整理を行った。図式化が完成したら、以下の二点についてグループとしての意見をまとめることとした。

・「これから 6 年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと」

・「実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと」

各グループのプロダクトは、チームごとの発表会を通じて学生間で共有した後、フォーラムの全参加者を対象とした発表会で紹介された。10 グループがプロダクト紹介を行い、すべてのグループの発表に対して他のグループの学生から質問や意見が出され、非常に活発な討論が行われた。

なお、当日のプログラムは以下の通りである。

【全国学生合同ワークショップのプログラム】

12：10～12：20　チームごとに他己紹介の方法説明

12：15～12：30　グループごとに他己紹介

12：30～12：50　グループごとに昼食

12：30～12：50　チームごとに作業説明

13：00～14：00　「実務実習を通して印象に残ったこと」
　　Ⅰチーム：病院実習、Ⅱチーム：薬局実習
　　KJ 法を用いて印象に残ったことを抽出・整理し、模造紙に関連図を作成
14：00～14：45　これから 6 年制卒の薬剤師になって取り組んで行きたいこと
　　実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと
14：50～15：30　学生チームごとに発表会　（3 分発表＋討論 2 分）×5 班，総合討論 15 分
15：40～16：50　フォーラム全参加者を対象とした学生合同 WS プロダクト発表会
　　（3 分発表＋討論 2 分)×5 班×2 チーム

各グループにはプロダクトを議論の経緯と共に報告書としてまとめることを依頼し、充実した内容の報告書が提出された。各班から提出された報告書については、グループ間で記載事項をある程度そろえるため、メンバー名や写真の掲載について編集・加工を行ったが、本文については加筆・変更などは行っていない。なお、グループ報告書に対するフィードバックとして、各グループを担当したタスクフォースからのメッセージをグループ報告書の最後に追加記載した。

学生からのメッセージに応えるため、本ワークショップ実行委員会では、各グループからの報告書の内容に基づいて「まとめ」を作成した。この「まとめ」は、今後の実務実習や薬学教育の改善に反映するため、薬学教育協議会を通じて発信していく予定である。

以下に全国学生合同ワークショップの「まとめ」と各班からの「報告書」を掲載する。

## 【全国学生合同ワークショップのまとめ】

全国学生合同ワークショップ実行委員会（以下、本実行委員会）では、学生による小グループ討議のプロダクトのまとめ方について協議した。その結果、各班から提出された報告書の内容は非常によくまとまっており、本実行委員会でさらに加工するよりも、学生からのメッセージをそのまま伝える方が重要であるということで意見が一致した。そこで、各班のタスクフォースが中心となって、テーマごとに各班の特徴となるメッセージを抜粋し、以下に紹介することとした。メッセージから各班の学生達の想いをくみ取っていただき、詳細については各班の報告書を熟読していただきたい。

また本実行委員会では、学生からの貴重な意見・提案を実務実習関係者に広く伝える方法についても検討し、以下にまとめた。提案した方法を参考に、学生からのメッセージを関係者間で広く共有し、今後の実務実習の改善・向上に活用していただければ幸いである。

### Ⅰ．学生達からのメッセージの抜粋

#### １.「実務実習を通して印象に残っていること」

【病院実習】

・　病院は命が生まれ、また消えて行くところだということを実感できた。
・　病院だから学べたこと：特殊な病態、抗がん剤、疾患、ケア、手術、カルテ、薬局との違い
・　体験型実習ができてよかった。

・ 実務実習は大変有意義であり、チーム医療への参加、コミュニケーションの重要性を肌で感じることができた。
・ 「患者と接することができた喜び」⇔「患者と接することができなかった悲しみ」
・ チーム医療の現実はチームではなかった。チーム医療での薬剤師の地位はまだまだでした。
・ 参加・体験の頻度・内容が指導薬剤師間あるいは施設間で異なっている（バラバラである）。
・ 実習を通して知識不足であることを、身をもって感じた。
・ 将来のビジョンが見えた。目指したい薬剤師像が見えてきた。

【薬局実習】
・ 全てに“人と人とのつながり”が関わっている：実習では、薬局のスタッフ、患者さんやその家族、地域の方、病院関係者など様々な人が薬局に関わっており、薬剤師になるにあたって人間同士のコミュニケーションが最も重要であるということを学んだ。
・ 調剤が患者さんの命に直接関わることを実感した。
・ 地域における薬局の重要性が分かった：在宅医療、ＯＴＣ販売、学校薬剤師、病院など
・ やりたかったけど出来ない内容があった：在宅医療、ＯＴＣ販売、服薬指導など
・ 薬局はサービス業だと思った：薬局にとって来局される方は“患者”であると同時に“顧客”である。個々の患者さんのニーズにあったサービスを提供する必要があることを知った。
・ 学校で学ぶ“理想”と現場で感じる“現実”にギャップがあることは否めない。しかしながら、現場の空気を肌で感じることができる実務実習は大変有意義であった。
・ 患者さんから感謝の言葉を頂いて嬉しく感じたり、将来を考えるきっかけになったりと、非常に良い経験になった。
・ 薬局間で実習内容に差があったので改善が必要だ。
・ 薬剤師の立場を向上するべきだと思った。
・

２．「これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと」
・ スペシャリストの前にジェネラリストの前に人間であれ～薬を介して人と人をつなぐ～
・ 薬剤師の必要性を高め、地位の向上にも寄与していきたい。
・ 薬剤師の存在意義を確立させたい。
・ 薬剤師という職業に自信をもつ。
・ 自分が理想とする薬剤師像をもつ（６年制卒として新しい薬剤師像をつくっていく）。
・ トータルサポートのできる薬剤師になる：薬を患者さんにお渡しするだけでなく、フィジカルアセスメントを行うことにより、薬剤師自身が治療効果のモニタリング、病態の評価を行い、フォローアップまでできる薬剤師を目指したい。
・ 職域を広げていく努力をする。
・ チーム医療や地域医療に積極的に参加し、薬のスペシャリストとして、患者をはじめ他の医療スタッフにも、より頼りにされることを目指したい。地域医療では、在宅医療において中心的存在になることを目指したい。
・ 医師に薬に関すること等、薬剤師として提案できるようになりたい。
・ 病院 - 薬局 - 地域の関連性をもっと強くしたい。

・ チーム医療において、薬剤師の視点だから言えることや薬剤師にしかできないことに積極的に取り組む。
・ 「患者さんに寄り添える薬剤師」、「責任をとれる薬剤師」、「信頼される薬剤師」、「積極性のある薬剤師」、「親しみやすく愛される薬剤師」、「患者のために行動できる薬剤師」になる。
・ 患者さんにとって、病院に行く前に薬局に足を運んでいただき、薬剤師に健康相談をしてもらえるような存在になりたい。
・ 実習での臨床経験を生かし、患者さんの心理についてもケアできる薬剤師になりたい。
・ 臨床経験を活かした創薬研究者になりたい。
・ 実習で感じた良かった点・悪かった点を生かして教育にも携わる。
・ ６年制薬学部の第一期生として、今回の実務実習の経験を生かし、幅広い分野で活躍したい。

３.「実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと」

・ 学生の立場だからこそ「今しかできないことをしたい」、多くのことを経験させてほしい。
・ 現場でしか得られない体験がしたい。患者さんと接する機会をもっと多くして欲しい。
・ 実習内容の統一化：服薬指導は最低件数を設定することで、学生間の統一を図ることができると考える。
・ 実習生に対し、大学・施設側はできるだけ放置するな！！
・ 実習施設を自分達で選択したい：実習先により学べることが違うので、自分の学びたい施設を選択できるようにして欲しい。
・ 実習施設によりできないSBOsもあるため、必須項目と選択項目を作っても良いのではないか。
・ 医療機関によって扱う薬剤や業務の内容も異なるため、複数の施設で実習を行いたい。
・ 学生の希望に応じてオプションを追加して欲しい。

【後輩へ】

・ 目標を持って積極的に参加すべし。
・ 薬理と病態を関連づけて理解しよう：大学の授業を大切に
・ 実習の経験を生かし、病院と薬局のどちらが自分に合っているのか適性を考えて欲しい。
・ 今回のような全国の大学生が集まるフォーラムに積極的に参加して欲しい。

【大学教員へ】

・ 薬学教育が 4 年制から 6 年制に変わった意義が私たち学生にはまだ明確に伝わっていない。具体的に何ができるようになればいいか、あるいは今、何をするべきかなどを提示して欲しい。
・ 個別対応をしてほしい：教員が学生に応じた対応をしてくれることで、実習の継続が難しくなる等の問題が生じたとしても解決できるかもしれない。
・ 日報・評価表の書き方、評価方法を全国で統一すべきである。
・ 評価基準について、大学側がきちんと実習施設に説明していただきたい。
・ 事前学習より早い段階（３～４年生）で実務実習を見学させ、具体的なイメージをつかむ機会があると良い。
・ もっと臨床に近いことを大学で学びたい。

・ 他大学や違う環境の学生との交流の場を設けて欲しい。
・ 薬学教育を受ける段階から、他の医療系学部（医学部医学科や看護学科など）との繋がりを持ちたい。
・ 実習中は実習に集中させてほしい（研究室の先生の理解）。

【実習施設・指導薬剤師へ】
・ 学ぶ≠仕事：私たち学生は新人ではなく、実務実習は新人研修ではない。“できること”を前提としないことを、薬剤師の先生方にもきちんと理解していただきたい。
・ 実習時間の明確化：実習の開始時刻と終了時刻を明確にしていただきたい。
・ 学生にアドバイス（フィードバック）を行って欲しい。
・ 話しかけやすい環境を増やしてほしい。
・ 評価するタイミングの改善：実習中期まで評価してもらえない学生もおり、客観的な達成度が不明確で、実習に対するモチベーションが上がらないこともあった。
・ 同じ病院内でも指導薬剤師によって指導内容が異なるので最低限の統一はして欲しい。
・ 指導方法をきちんとし、薬局内での連携をとって欲しい。
・ できない内容は他施設と連携を！
・ ドラッグストア実習の検討：11 週のうち何週か体験してみたい。
・ 私達 6 年制の薬学部実習生を快く受け入れてくれるような環境を作って欲しいと願う。
・ 私達は「学ぶ」という志を持って実習を行っているのだから、それにかなう実習環境を整えて欲しい。

## Ⅱ．学生達からのメッセージを広く伝えるために

学生からの提出された報告書の文末に、以下のようなメッセージが添えられていた。「これらの内容はすべての実習機関に伝達され、後輩の実習環境がよりよいものになる事を、一同願っております」。この真摯な要望に応えるため、本実行委員会は学生達からのメッセージを広く伝える方法として以下のことを提案する。

【大学・関連団体への伝達】
・ 全国学生合同ワークショップに関する報告は、薬学教育協議会が作成する文部科学省委託事業「実務実習における大学と施設の連携および事前学習の充実化に関する調査研究」報告書の一部として、冊子体が全国薬科大学・薬学部、「薬学教育協議会フォーラム 2011」参加者、関連団体等に配布される。
・ 上記の文部科学省委託事業の報告書とは別に、「全国学生合同ワークショップ報告書」の部分を抜粋し、薬学教育協議会ホームページで公開し、PDF ファイルとしてダウンロードできるようにする。
・ 文部科学省、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会にホームページへのリンクを依頼する。また、都道府県単位の薬剤師会・病院薬剤師会のホームページへのリンクも併せて依頼する。

・ 本実行委員会のメンバーが中心となって、平成 23 年度に開催される学会・フォーラム等で学生のメッセージを紹介する。なお、日本薬学会第 131 年会の一般シンポジウム（平成 23 年 3 月 30 日）での発表は決定済みである。

【大学教員への伝達】

・ 「全国学生合同ワークショップ報告書」の冊子体を各大学で作成し、全教員に配布することを「薬学教育協議会フォーラム 2011」に参加した教員に依頼する。
・ 平成 23 年 3 月 28 日に静岡において開催される「実務家教員連絡会議」において「全国学生合同ワークショップ報告書」の冊子体を配布する。

【指導薬剤師への伝達】

・ 大学において「薬学教育協議会フォーラム 2011」参加教員が中心となり、平成 23 年度の実務実習受入施設を対象とした説明会や事前訪問の機会を利用して、「全国学生合同ワークショップ報告書」の冊子体を指導薬剤師に配布する。

【後輩への伝達】

・ 大学において「薬学教育協議会フォーラム 2011」参加教員が中心となって、平成 23 年度に実務実習を行う学生を対象とした説明会などを利用して、実務実習を終えた一期生（例えば、本ワークショップ参加学生）が後輩にメッセージを伝える機会を設ける。

【薬学教育協議会における取組】

・ 本ワークショップにおける学生からのメッセージが実務実習の改善・充実に反映されたかを検証するため、今回のような「全国学生合同ワークショップ」を平成 23 年度も開催できるか検討する。
・ 学生の参加できる薬学教育に関するイベントが積極的に開催されるよう提案していく。

## 【第1部】学生による小グループ討論（SGD） グループ表
12：10～15：30

### グループＩＡ

| メンバー | |
|---|---|
| 北海道大学 | 河合　ゆき |
| 国際医療福祉大学 | 土子　雄太 |
| 帝京平成大学 | 飯坂　惇 |
| 昭和薬科大学 | 安達　晶子 |
| 名古屋市立大学 | 張本　伸彦 |
| 京都薬科大学 | 丸山　紗代 |
| 神戸学院大学 | 大谷　真美 |
| 福山大学 | 中村　健志 |
| 熊本大学 | 川幡　見奈子 |

タスクフォース　賀川　義之

### グループＩＢ

| メンバー | |
|---|---|
| 北海道医療大学 | 村尾　奈月 |
| 城西大学 | 嶋崎　広典 |
| 千葉大学 | 酒井　のぞみ |
| 武蔵野大学 | 谷野　義幸 |
| 星薬科大学 | 平井　雄基 |
| 北陸大学 | 赤羽　みずき |
| 京都大学 | 北市　麻衣子 |
| 徳島文理大学 | 山下　記承 |
| 九州保健福祉大学 | 有村　圭未 |

タスクフォース　木内　祐二

### グループＩＣ

| メンバー | |
|---|---|
| 東北大学 | 阿部　誠也 |
| 城西国際大学 | 佐藤　崇大 |
| 東邦大学 | 久保田　由美 |
| 東京薬科大学 | 森川　剛 |
| 新潟薬科大学 | 柄沢　仁美 |
| 金城学院大学 | 野村　知世 |
| 大阪大学 | 黒野　友理香 |
| 徳島文理大学 香川薬学部 | 相澤　茉実 |
| 第一薬科大学 | 大橋　直人 |

タスクフォース　野田　幸裕

### グループＩＤ

| メンバー | |
|---|---|
| 奥羽大学 | 菅野　小雪 |
| 東京理科大学 | 駒嶺　真希 |
| 日本大学 | 花岡　俊輔 |
| 明治薬科大学 | 竹内　瞳 |
| 富山大学 | 高屋　郁江 |
| 愛知学院大学 | 浅野　尚充 |
| 神戸薬科大学 | 樗木　真帆 |
| 松山大学 | 福永　康正 |
| 九州大学 | 古田　聡 |

タスクフォース　平田 收正

### グループＩＥ

| メンバー | |
|---|---|
| 青森大学 | 藤本　健太郎 |
| 慶應義塾大学 | 小林　聡太 |
| 昭和大学 | 大塚　恭子 |
| 日本薬科大学 | 岩澤　松芳 |
| 金沢大学 | 高橋　リエ |
| 大阪薬科大学 | 森川　祥彦 |
| 岡山大学 | 奥野　真理 |
| 福岡大学 | 宮本　聖子 |
| 長崎国際大学 | 大嶺　彩 |

タスクフォース　吉富　博則

### グループⅡＡ

| メンバー | |
|---|---|
| 北海道大学 | 坪内　真知子 |
| 国際医療福祉大学 | 高松　竜一 |
| 城西大学 | 田中　誠 |
| 昭和薬科大学 | 小川　真依 |
| 静岡県立大学 | 鈴木　常義 |
| 摂南大学 | 谷口　香織 |
| 福山大学 | 西　雅美 |
| 福岡大学 | 川崎　千尋 |
| 熊本大学 | 吉田　優子 |

タスクフォース　小澤　孝一郎

### グループⅡＢ

| メンバー | |
|---|---|
| 北海道薬科大学 | 高橋　涼太 |
| 東邦大学 | 国府田　千沙 |
| 東京理科大学 | 野田　岳郎 |
| 武蔵野大学 | 飯田　奈々絵 |
| 名古屋市立大学 | 西尾　碧 |
| 京都大学 | 上田　康彦 |
| 大阪大谷大学 | 中井　彩香 |
| 徳島文理大学 香川薬学部 | 野口　知里 |
| 長崎大学 | 坂元　景子 |

タスクフォース　小佐野　博史

### グループⅡＣ

| メンバー | |
|---|---|
| 東北大学 | 奥谷　倫世 |
| 帝京平成大学 | 石毛　祐樹 |
| 北里大学 | 婦川　貴博 |
| 北陸大学 | 浅井　希美 |
| 同志社女子大学 | 三間　紘子 |
| 就実大学 | 浦上　真人 |
| 広島大学 | 青木　志保 |
| 徳島文理大学 | 山崎　友之 |
| 九州保健福祉大学 | 渡部　由起 |

タスクフォース　亀井　美和子

### グループ ⅡＤ

| メンバー | |
|---|---|
| 東北薬科大学 | 阿保　成慶 |
| 千葉科学大学 | 高橋　伸夫 |
| 慶應義塾大学 | 近藤　愛子 |
| 帝京大学 | 野々宮　菜彌 |
| 富山大学 | 柴田　和之 |
| 名城大学 | 榊原　有季子 |
| 武庫川女子大学 | 石垣　智加 |
| 広島大学 | 岩崎　隼人 |
| 崇城大学 | 中村　優希 |

タスクフォース　中村　明弘

### グループⅡＥ

| メンバー | |
|---|---|
| 高崎健康福祉大学 | 末松　将隆 |
| 昭和大学 | 宮田　恵 |
| 東京大学 | 栗本　蕗 |
| 横浜薬科大学 | 飯田　啓子 |
| 近畿大学 | 高部　朋幸 |
| 岡山大学 | 白石　奈緒子 |
| 広島国際大学 | 岩元　陽香 |
| 徳島大学 | 塚田　竜矢 |
| 長崎国際大学 | 一瀬　史弥 |

タスクフォース　橋詰　勉

Ｉチーム

# 病院実習を通して
# 印象に残っていること

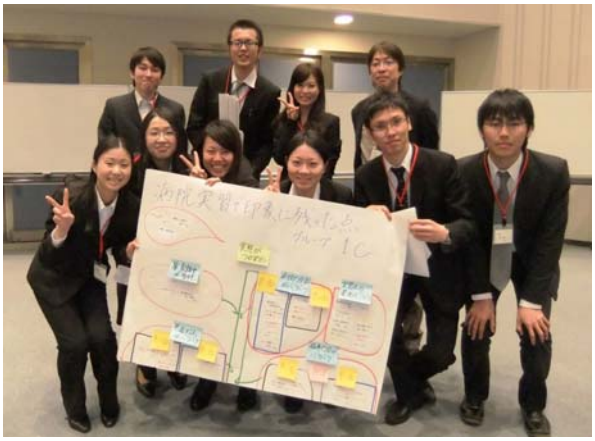
## Ｉチーム

ＩＡ班

ＩＤ班

ＩＢ班

ＩＥ班



ＩＣ班

チームでの発表会

# ＩＡ班　報告書

## １．病院実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

各カードに記載された意見を、まず良かった点・悪かった点に分類した。その後、それぞれ自分がやりたかったことができた、体験型実習ができて良かった、薬剤師としてのやりがい、病院間での実習内容に差があるのを感じた、事前学習の学校への不足の不満、人間関係が悪かった（コミュニケーション）にグループ内で議論をしながら分類した。良かった点、悪かった点で対比しながら、そして分類できなかったものとの繋がりについても考えていった。「…について学ぶことができた」という意見が多かったが、それは自分が学ぼうという姿勢だったからこそ良かったのか、また、ただ単に感想なのかというところで議論し、最終的に自分がやりたかったことができた、体験型実習ができて良かったという形で分類した。そして「病院は命が生まれ、また消えて行くところだということを実感できた」という意見は、あえて分類はせず、病院で実習してきた身としていつまでも忘れてはいけない気持ちとして、メンバー全員で共感することができた。議論をして行く中で時間が少なく、意見を深く議論できないものもあり心残りの部分もあったが、それぞれの自分の大学内の友人には持っていない考え、意見に触れることができ、大変、有意義な時間を過ごさせていただいた。

以下、各カードの意見と分類した島のタイトル、プロダクトを示す。

*良かった点*

薬剤師としてのやりがい

薬剤師が一番話しやすくて頼りになると言われた。
患者さんに真摯に向き合うことの大切さを学んだ。
医師との関係が良好で信頼されている様子がうかがえた。
緩和ケア病棟で患者さんの服薬指導やケアを経験して、患者さんと親しくしたり励まされたりしてよかった。
服薬指導で患者さんに「ありがとう」といってもらえたことが嬉しかった。
患者さんがよくなって帰るときにありがとうといってもらえたのが良かった。
他の医療スタッフが思っていた以上に薬の知識がない場合もあり、薬剤師の役割の大切さを感じた。
医師や看護師に薬について質問されたり、頼られていていいなと思った。

自分がやりたかったことができた

専門薬剤師について学ぶことができた。
当直をやらせてもらった。
抗生物質の使用について学ぶことができた。
多くの勉強会に参加することができた。
院内 PHS を使って、実際に Dr に疑義照会をさせてもらった。
緩和ケアチームに参加させてもらい、患者さんのメンタル面での痛みなども感じることができた。

担当させていただいた患者さんが、内科、外科、整形など異なる診療科だったので病態生理を深く学べた。
担当の患者さんをつけてもらい、治療薬、検査値の変化を深く学べた。
多くの服薬指導をさせていただいた。
質の高い服薬指導をすることの難しさを学んだ。

体験型実習ができてよかった

医療事故防止のディスカッションが多く行われていた。
医療事故防止の難しさがわかった(工夫が大事)
薬局より設備がしっかりしていてよかった。
病棟の服薬指導をじっくりやれたのがよかった。
透析の有名な病院だったので輸液について学べた。
ケモのプロトコールや実際の処方のされかたを学ぶことができてよかった。
TPN や抗がん剤調製など病院でしか体験できないことを体験できたので、良かった。
薬剤師は薬物の知識だけを持っているのでは、ダメなんだと学んだ。
薬のことだけでなく、持参薬管理の為の質問や、病気についての説明もしてた。
話を聞きだすことと簡潔に伝えることの難しさを学んだ。
実習全体を通じて、信頼関係を築くのはやはりコミュニケーションだと感じた。
薬剤師業務と病棟業務をかけもちして良かった。
プレゼンの課題があって DM の治療薬について深く学べた。
薬だけでなく褥瘡ケア等の勉強もしていた。
輸液が豊富にあったのですごく勉強になった。
抗がん剤調製を多くさせてもらえたので病院ならではの調剤ができたからよかった。
チーム医療がしっかりとしている病院でしたので医師とのコミュニケーションができた。
薬剤師が病棟配置薬の管理をすることの大事さがわかって良かった。
色々な勉強会や会議に参加して、とても良い経験になった。

*悪かった点*

事前学習の学校への不満

大学で一般名でしか勉強してこなかったため、商品名を覚えるのに時間がかかった。
商品名を学校で学んでいなかったので、覚えるのが大変だった。
SOAP は書き方や言い回しが独特で、慣れるまで大変だった。
抗がん剤のミキシングでは学校、OSCE で学んだこととは操作がまったく逆で困った。

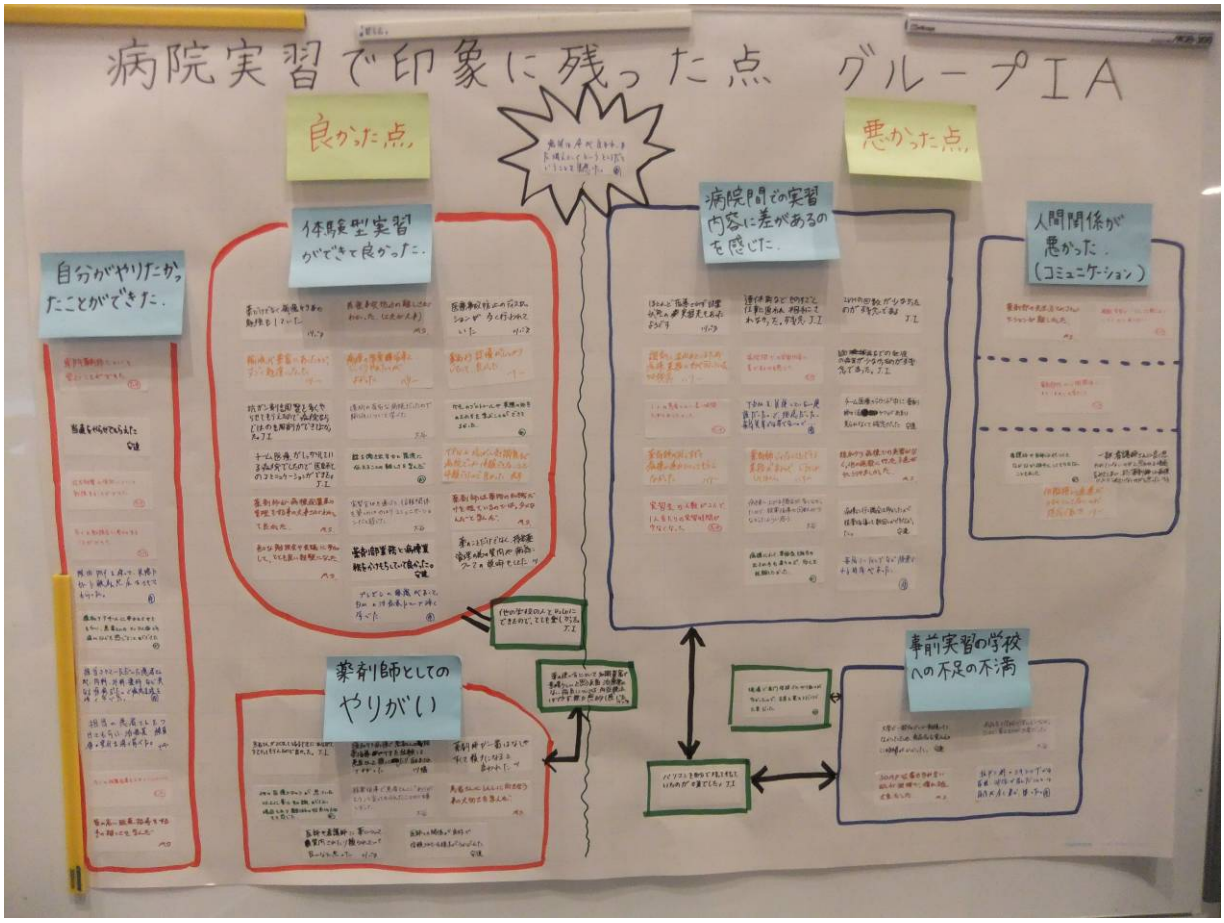
人間関係が悪かった（コミュニケーション）

看護師や医師は忙しくてなかなか相手にしてもらえないこともあった。
一部、 看護師さんによく思われていないかと思われる場面を見てしまい、まだ
薬剤師は病棟に入り込めていないのかと思った。

他職種との連携がうまくいっていないのが残念であった。
薬剤部内の人間関係にまきこまれて大変だった。
薬剤部の先生方とのコミュニケーションが難しかった。
複数、実習生がいると、比較されてしまうので良くない。

病院間で実習内容に差があるのを感じた。
ほとんど指導されず放置状態の実習先もあったようです。
調剤に追われているため、病棟業務に手が回っていないのは残念。
1 人の患者さんに長い時間携わりたかった。
薬剤師が忙しすぎて、病棟に連れて行ってもらえなかった。
実習生の人数が 2 人で 1 人当たりの実習時間が少なかった。
連休前などものすごく仕事に追われ相手にもされなかった。残念。
病院間での実習内容に差があるのを感じた。
TDM を実施していない施設だったので、残念だった。薬局実習では学べないので･･･
薬剤師じゃなくてもできる業務があるので、どうにかしてほしい
病棟へ上がる機会が多くなかったので、服薬指導の回数が少なかったように思う。
病棟によって、雰囲気も処方の出され方も違うので、多くを経験したかった。
IVH の回数が少なかったのが残念である。
白血病などの血液の病気が少なかったのが残念であった。
チーム医療のラウンド中に薬剤師の活躍があまり見られなくて残念であった。
緩和ケア病棟での実習がなく、他の施設に行った子達が少しうらやましかった。
病棟に行く機会は多かったが服薬指導は数回しかできなかった。
薬局ミーティングなど放置される時間があった。

*分類できなかったカード*
パソコンを自分で持って行っていたのが嫌でした。
現場で専門用語でのやり取りが多かったので、言葉を覚えるだけで大変だった。
薬の使い方について、知識豊富で素晴らしいと思う。
治療薬のない病気については、対症療法しかできず、無力感を少し感じた。
他の学校の人といっしょにできたので、とても楽しかった。
病院は命が生まれ、また消えていくところだということを実感した。




## 2．これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

- 周囲の６年制卒に対する期待を満たすためには、知識やコミュニケーション力をベースとして、薬剤師免許以外のプラスになる資格をとることで、他の薬剤師との差別化を図る。
- 臨床経験を活かした創薬研究者になりたい。
- 体験型から参加型の実習になった事で、薬剤師がもっと積極的に患者との距離を近くする。

## 3．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

- CBT・OSCE での知識を活かすまでの期間が長い。
- 実習生に対し、大学・施設側は出来るだけ放置するな！！
  →大学は、教授により差がある。
  →連携がもっと必要
- 実習先により学べることが違うので、自分の学びたい施設を選択できるようにして欲しい。
- 目標を持って積極的に参加すべし（後輩へ）
- 実習する事で現場を見る事ができ、薬剤師のやりがいを体験できて、とても感謝している。
- 将来の進路に大きく影響
- 薬剤師の地位向上に向けて意識を高める。

**<議論の経緯>**

まず、『これから6年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと』という議題に対し、いかに6年制卒の薬剤師として差別化を図るかという事に視点をおいて議論をしました。

上述の通り、実習という臨床経験を活かし、さらに知識やコミュニケーション力をつけることで、より患者満足というものを向上していくべきではないかということになりました。そして、認定薬剤師等の資格を積極的に取得することで、自己研鑽と他の薬剤師との差別化を図ることも大事なのだという結論に至りました。

また、現在医師による研究分野では臨床経験を活かした研究が行われており、今後、薬剤師も臨床経験を十分に活かした研究者になれるのではないかという意見も出ました。

今以上に、服薬指導等を通じて患者さんに積極的に関わり、その健康に貢献する、という概念が皆の共通意見としてあり、より患者さんに近い場所において自分達の活躍の場を求めていきたいと思っています。

次に、『実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと』という議題に対し、それぞれ思ったことを出し合いました。

実習を実際に行った感想としては、やはり、現場での業務を体験することは薬剤師の業務ややりがい等を実感するうえでとても有効な方法であるという結論に至りました。実際に現場を体験することにより、自分が実際に仕事をするイメージがより鮮明になることで、自分の進路として薬剤師を考えるようになる人もいました。

問題点としては、現在CBT・OSCEを行ってから実習に行くまで期間が空いてしまい、事前実習で学んだことを活かしきれない、加えて、実習が終わってから卒業研究や国家試験をはさむこともあり、実際に現場で働くときには実習の経験を忘れてしまうのではないか、等の危惧もありカリキュラムそのものに対して改善の余地があるのではないかという意見がでました。さらに、実習生を受け入れる側（病院、薬局等）でのカリキュラムも確立されておらず、実習先によって実習内容に大きな差異が存在しているというのも問題であると認識しました。学生それぞれにより学んでみたい内容（例えば、大きな大学病院のようなところで先進的な知識をつけたい等）はあるので、実習先を選択するうえで学生の希望が反映されるようなシステムがあると、学生の実習に対する満足度も上方すると思いました。

総じて、まずは学生がきちんと目標をもって実習に積極的に参加することで、有意義な実習になるように努力する必要があると思います。さらに薬剤師の地位向上のために、一人一人が何をしていくべきかという意識を高めていく必要性を感じました。

6年制卒薬剤師の登場、登録販売者による医薬品の販売、ジェネリック医薬品の登場、製薬会社における2010年問題、インターネットによる医薬品販売等、現在の医薬業界はひとつの変遷期を迎えています。その中でも私達は6年制卒薬剤師としてかかる期待と果たす役割は、今後の薬剤師の立場を大きく左右するものと認識しています。とはいえ、薬剤師による処方権の所持や薬剤報酬の向上などの問題においても、以前から議論が行われてきていますが行政に関わる問題であればあるほど、私達にはどうすることもできないような気さえします。しかし、だからこそ私達一人一人が薬剤師としての目指すべき目標を明確に持ち、6年制卒薬剤師を指導する立場の方々と6年制卒薬剤師が一丸となってその目標に向かっていく必要があり、そして医療を行っていく前提として、患者さんが存在しその健康に貢献していく意志も忘れてはならないと思います。

今回、このように全国から薬学生が集まり、互いに意見を交換し合えたことは大変貴重な経験になりました。今後もこのような活動を増やしていければ薬剤師全体が若い世代からもっと活発になってくるのではないかと思います。

今回のフォーラム開催に関わり、このような貴重な経験をさせて下さいました関係者様に深く御礼申し上げます。

「タスクフォースから学生へのメッセージ」

（静岡県立大学　賀川義之）

I-A 班のタスクフォースをさせていただいた静岡県立大学の賀川です。学生さん同士が直接話し合う機会でしたので、教員や指導薬剤師に話すのとは異なる本当の声を聞くことができ、私も大変参考になりました。実務実習の印象というと、どうしても悪かったことがすぐ頭に浮かぶかと思います。しかし、KJ 法を用いて情報を整理する中で、改めて実務実習のよかった点をじっくり考えてみると、多くのカードが出て来ました。「病院は命が生まれ、また消えて行くところだと実感できた」、知識としての理解だけだったことが、病院実習を通じて実感できたことは、皆さんの人生に価値ある変化を及ぼすのではないでしょうか。今回の実務実習では多くの収穫があり、皆さんが多くを学び、また成長しました。意識せずに自然に行動できているというのは、自分ではなかなか気付きにくいのですが、皆さんが成長した証拠です。これからの皆さんのさらなる飛躍に期待しています。

# ＩＢ班　報告書

## １．病院実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

私たちＩＢ班は「病院実習を通して印象に残ったこと」について、KJ 法を用い、それぞれの回答を島ごとにまとめ、ポスター１枚にまとめた。討論した結果、「病院だから学べたこと」、「コミュニケーション能力が大切」、「実習生が感じた課題」の３つの大きな島に分けることができた。今回の病院実習を通して薬や病態の知識面や、患者との接し方について深く学ぶことができたが、病院間の差、指導薬剤師の多忙さにより実習を十分に行えなかった学生もいたことから、それらについては改善すべきであるという結論に至った。

以下に各島に属する回答を挙げる。

1.　病院だから学べたこと

（1）特殊な病態

精神科患者に対しての指導を体験できた。緩和ケアについて学ぶことができた。専門領域について深く学べた。特殊な病態の患者をみれた。

（2）抗がん剤

抗がん剤の調製ができた。抗がん剤、麻薬の調剤がたくさんできた。

（3）病気について学べた

症例報告を通して病気について勉強できた。処方の解析が大切だと思った。薬だけでなく、疾患やケアについての知識もいる。治療方針の理解が必要だと感じた。１つの病棟のことを詳しく知ることができた。

（4）手術

手術見学ができた。手術を見ながらその疾患について学べた。手術見学など貴重な体験ができた。

（5）薬局との違い

調剤室が広い。薬局と違い処方意図や患者情報がわかる。

（6）電子カルテ

電子カルテをたくさん見せてもらえた。カルテが見れる。電子カルテが見やすかった。電子カルテがすごかった。電子カルテと紙カルテが混ざっていて大変だった。紙カルテを見せてもらえなかった。

2.　コミュニケーションが大切

（1）チーム医療

他職種との連携の重要性。他職種の仕事内容もある程度学べた。ＭＲとの対応を学べた。チーム医療の現実はチームではなかった。チーム医療での薬剤師の地位はまだまだでした。他の医療従事者の方とあまり話すことができなかった。

（2）コミュニケーション

患者とのコミュニケーションの難しさを感じた。コミュニケーション能力が必要。

（3）患者との関わり

患者と接する場面が多くあった。服薬指導をたくさんやらせてもらえた。病棟で患者と接することができたのはよい経験となった。服薬指導以外は割と実務ができなかった。

（4）対ドクター

ドクターの知識の多さにびっくりした。ドクターと処方意図について話し合えた。医師のカンファレンスに参加できた。医師に直接意見を言えたこと。

（2）と（3）外来患者とはコミュニケーションがほとんどとれない。

（2）～（4）英語の必要性を感じた。

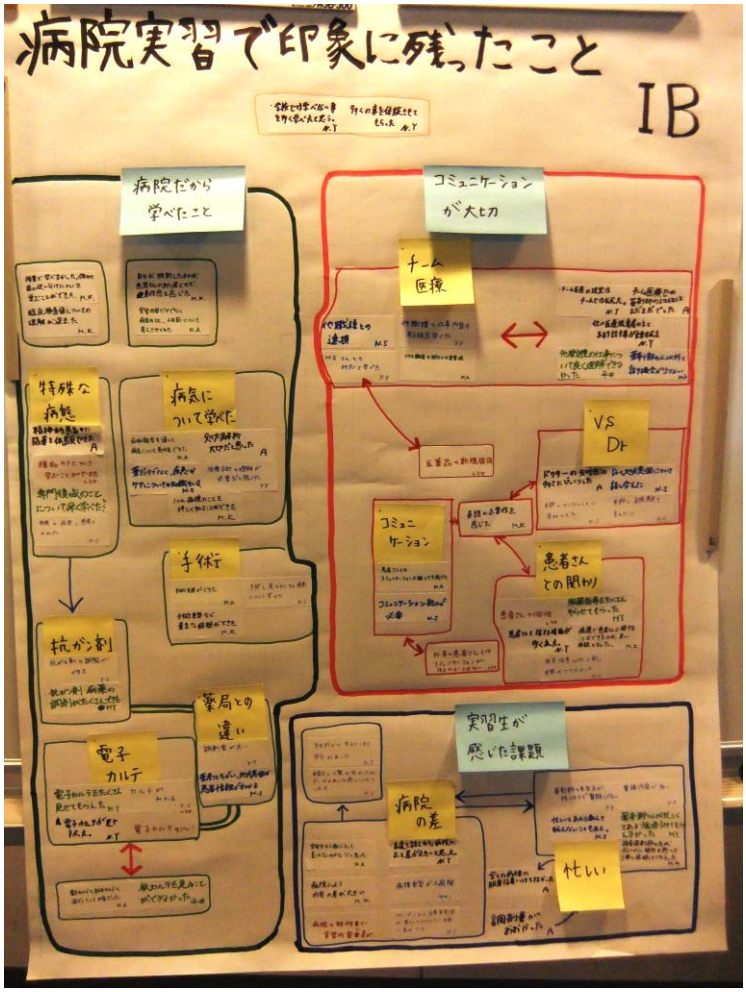
3.　実習生が感じた課題

（1）病院間の差

病院により内容の差が大きい。病棟実習が２週間しかなかった。グループによって指導薬剤師が異なっていたので、内容に差が出た。実習生の人数が多かったので少し馴れ合いな感じになってしまった。

（2）忙しい

薬剤師が忙しそうで質問しづらい。業務内容が多い。指導薬剤師の方が忙しいのに時間を割いて丁寧に説明してくださった。すべての病棟に服薬指導にいけなかった。調剤数が多かった。




次に KJ 法により導かれた考えから、「これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと」「実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと」の二点について討論した。

## ２．これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

薬剤師の必要性を高め、地位の向上にも寄与していきたいという思いが強かった。また長期実務実習での臨床経験を生かし、患者さんの心理についてもケア出来る薬剤師になりたいという意見もあった。

以下に意見を挙げる。

- 婦人科、小児科の専門薬剤師になる。
- 専門薬剤師の必要性をアピールしたい。
- 専門薬剤師として薬剤師が医師、患者さんに対して何ができるかを考えたい。

・　薬剤師の必要性がわかる様にアクションを起こしたい。
・　患者さんを中心に考えたい。
・　長期実習の中で生死・倫理についても考えたい。
・　心理学的も学びたい。

## ３．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

後輩、大学、調整機構、実習施設に対しての意見が挙がった。

後輩に対しては前向きな意見が多く、実習での経験は有意義であったという意見が多かった。

しかしその一方で、大学・調整機構・実習施設に対しては、今後改善する余地があるのではないかという意見が多くみられた。

以下に意見を挙げる。

○　後輩
・積極性を持って実習に取り組んで欲しい。
・実習の経験を生かし、病院と薬局のどちらが自分に合っているのか適性を考えて欲しい。

○　大学
・他大学や違う実習環境の学生との交流の場を設けて欲しい。
・非常時（人間関係等）の連絡をしっかり取れる様にして欲しい。
・様々な種類（門前、面分業等）の薬局が見たい。

○　調整機構
・直前の変更等無い様にしっかりして欲しい。

○　実習施設
・指導薬剤師の選定・教育をしっかりやってもらいたい。
・指導方法をきちんとし、薬局内での連携を取って欲しい。

○その他
・施設により出来ない SBOs も有るため、一部、必須項目・選択項目を作っても良いのではないか？

**「タスクフォースから学生へのメッセージ」**

（昭和大学　木内祐二）

KJ 法では、皆さんの討議がとても盛り上がり、時間が足りなくなるのでは、と心配するほどでしたが、３つの大きな島と小島からなる図で、わかりやすくまとめてくれて感心しました。討議により、大学、病院、学生や指導者により、実習内容に差があることも明らかになりましたが、皆に共通して、「病院だから学べたこと」があり、医療現場では「コミュニケーションが大切」という感想を持っていることもわかりました。９大学の学生さん全員が、このようなポジティブな印象を持っていることは、実習に関わっている教員としては大変に嬉しく思いました。少し時間が足りませんでしたが、「これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと」として、「専門薬剤師」という専門性とともに、生命倫理や患者心理の理解といった「患者中心の医療」に関わる事柄を挙げてくれたことも感銘を受けました。この思いを大切に、新時代の医療を担ってくれることを期待します。

# ＩＣ班　報告書

## １．病院実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

我々IC 班は、「病院実習を通して印象に残っていること」という題目について KJ 法によって意見を出し合った。そこで多かった意見としては、施設によって設備や扱っている疾患が異なるといった実習先の施設間で大きな差があることや、薬剤師の忙しそうな姿やチームの中での薬剤師といった医療現場での薬剤師の実態についてであった。そのため我々の班では、大学間・施設間でバラバラであった点を内容ごとに分類して島とし、またその中でも良い面と悪い面とに分け、それらを「実態がつかめた」という一本の主軸に集約させ、そこから見えてきた「今後の課題」へとまとめた。KJ 法で得られた意見、島の名前は以下のとおりであり、それをもとに作成した関連図を３頁目に示す。

得られた意見を次にまとめる。

「薬剤師が多忙」という島では、忙しい、病院薬剤師は多忙、病院薬剤師の忙しい業務、病院薬剤師の仕事が多い、戦場のような忙しさ、という意見が出た。これらに関して我々は、忙しいという直感的な感想から、出来る仕事が増え、薬剤師が病院内で関わっていける分野が広がっているということではないかという意見へと議論を進めた。

「患者対応がバラバラ」という島では良い面として、病棟に出る機会が多い、一人の患者さんを担当できた、最後まで一人の患者さんを担当することができた、入院患者さんの生の声が聞けた、という意見が挙がり、悪い面については、患者さんと接する機会が少ない、一人の患者さんを通して担当したかった、という意見が挙がった。

「病院内交流がバラバラ」という島では良い面として、チーム医療への関わり、チーム医療（ICT、NST）の重要性、看護士への情報提供、Dr からの問い合わせが結構多い、色んな職種の方との交流ができた、という意見が出され、悪い面としては、医師と話をする機会が少ない、他職種とのコミュニケーションは学生でもできるのか、チームの中であまり発言できていない薬剤師という意見が出された。

「実習先の環境がバラバラ」という島では、薬剤（の数）が多い、患者が重病、重症な患者に会えなかった、実習後の勉強会で帰りが遅かった、専門薬剤師の話が聞けた、施設の設備が充実していた、薬剤部内の雰囲気に難あり、調剤室の雰囲気があまり良くない、病棟と調剤室との壁、という意見が出た。

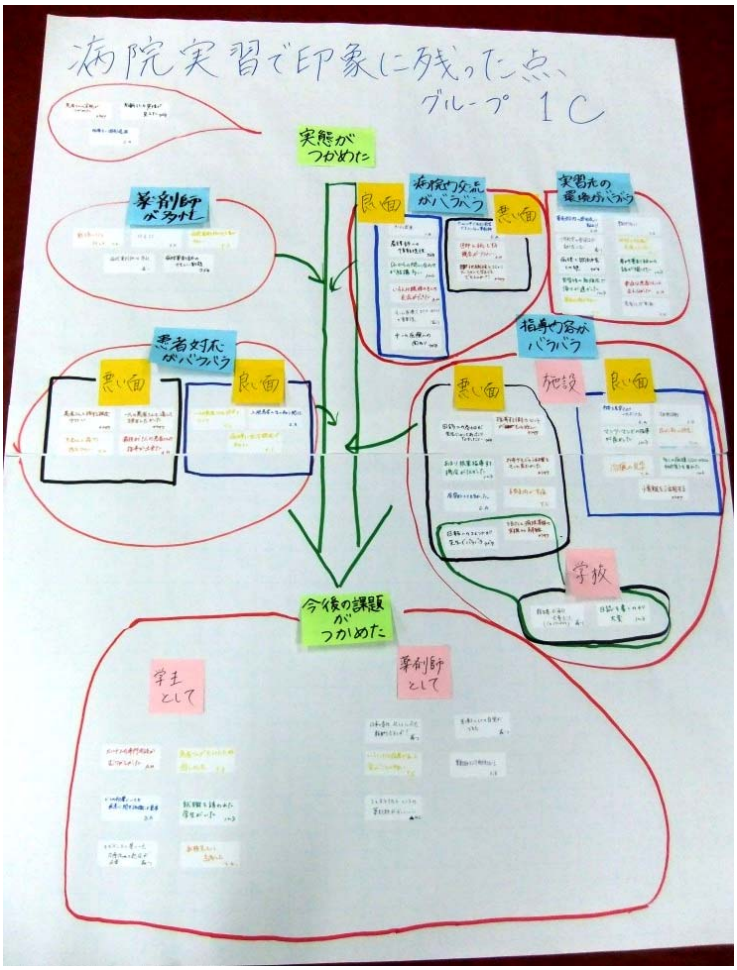
「指導内容がバラバラ」という島では、施設側の良い面として、手術を見学させてもらえた、注射剤調製、抗がん剤の調製、マンツーマンでの指導が良かった、多くの病棟（ICU、NICU、手術室）が見られた、治験の見学、（DI 室での）情報の活用、という意見が挙がった。悪い面としては、回診への参加が先生によってあったりなかったり、指導する側からのヒントがもっと欲しい、外来ケモでの活躍をもっと見たかった、座学が多い、自習時間が苦痛、あまり服薬指導する機会がなかった、SBOs と実際の病院業務との乖離、という意見が挙がった。また学校側も含めた悪い面として、日報へのコメントが先生によってバラバラ、報告書が毎日大変だった、日誌を書くのが大変、という意見もあった。その他にも孤独な意見として、患者さんの実態がつかめた、高齢化の実情が見えた、結構多い調剤過誤、というものもあった。これらを踏まえて、大学間・施設間における実習内容の差異が目立ち、実習を行った学生の経験にも大きな差が生じてい

るのではないかという問題点を挙げた。

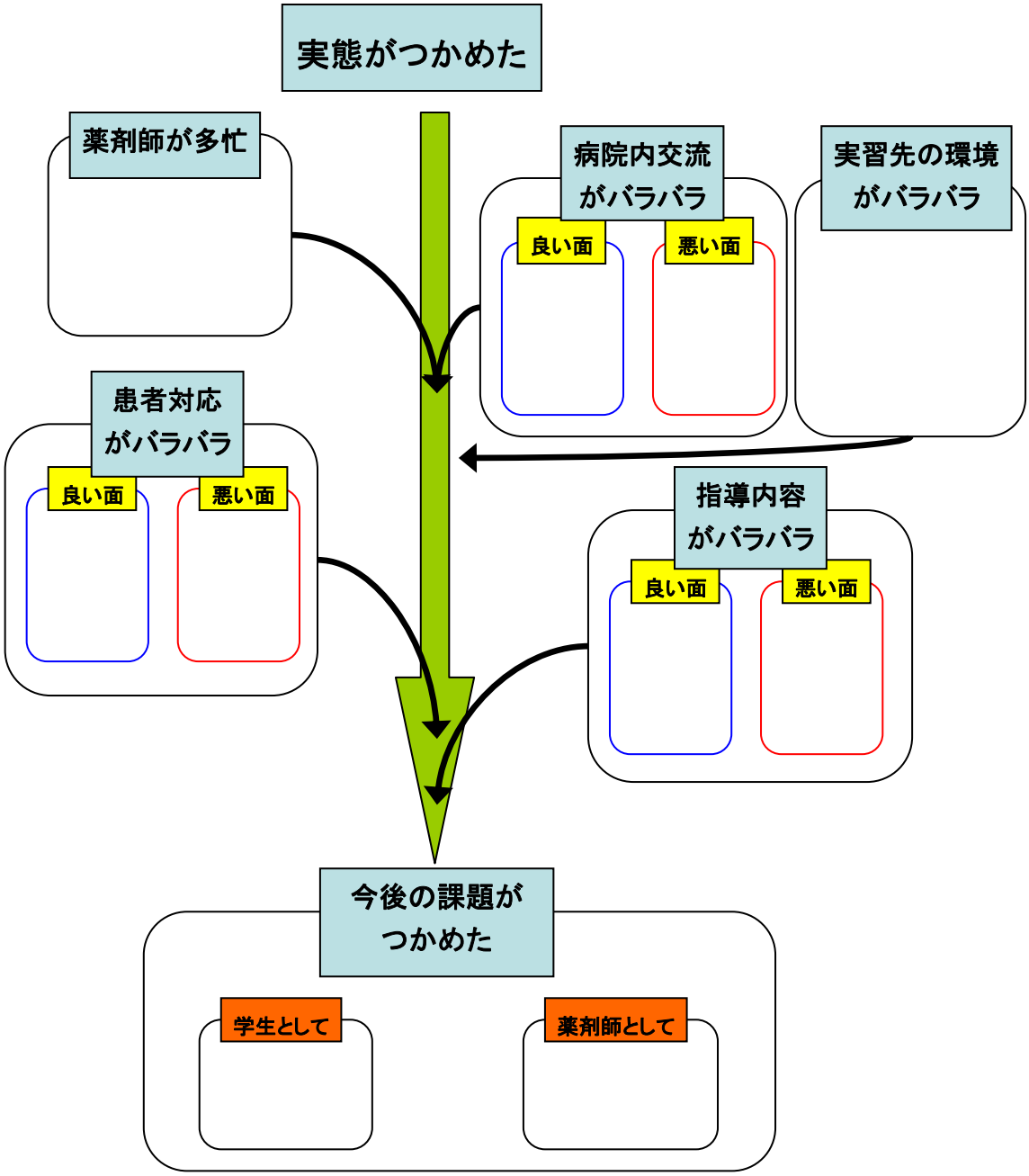
最後に「今後の課題がつかめた」という島では学生側の課題として、カルテ上の専門用語が難しかった、患者さんが亡くなったとき悲しかった、就職を誘われた、就職先として意識した、どの部署にいても疾患に関する知識は重要、エビデンスに基づいた治療法の勉強が必要、という意見が集まった。薬剤師として考えた場合には、仕事の責任・忙しさに見合った報酬だろうか、色々な疾患があって学ぶことが多い、薬剤師として勉強になる、ジェネラリストとしての薬剤師がかっこいい、医療人としての自覚ができた、という意見が出た。

課題として挙がったものは、やはり実習内容に差が生じてしまっているという現状が一番であった。これについては一部の大きな病院でしか経験できないことや、病床数に対する薬剤師の人数などの勤務体制の違いにより指導薬剤師が学生に時間を割くことが出来ずに経験させてもらえなかったこと等、施設に左右されることが多かった。それは他施設実習を行ったり、学校から指導側にやってくださるように強く要望したりすることで解決できるのではないかと考えた。また、学校で学んだ知識と実際の現場で必要な知識との違いや、もっと勉強しておくべき項目がある、という事前実習までに学んでおくべきことが他にも多くあるのではないかという点も挙げられたが、それらは現場で学ぶことも出来るということが分かった。

今回の SGD は現在の実習の実状を把握することに非常に有用であり、来年度以降の学生へ、また実習を受け入れてくださる施設へ、さらには事前実習を行う大学への良いフィードバックが出来たのではないかと考える。これを来年度からの実務実習へ活かす一つの手掛かりとし、これからの薬剤師育成をより充実したものとしてくださることを期待したい。



病院実習で印象に残った点




## ２．これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

まず他職種とのコミュニケーションをとるためには様々な幅広い知識が必要になるのではないかと考え、始めに「スペシャリストの前にジェネラリストになる」という言葉が我々のグループでは掲げられました。今後薬剤師の存在意義を高めるためには、他の職種や患者さんから信頼を得ることが必要となります。しかし知識があるだけで信頼は得られるのかという議論になり、信頼を得るためには知識の面だけでなく、それ以前に人と人との関わりなので思いやりの気持ちも必要であると考えました。そして「スペシャリストの前にジェネラリストの前に人間であれ~薬を介して人と人をつなぐ~」という言葉を掲げました。薬剤師にしかできない事により、他職種や患者さんと関わっていき存在意義を高めようという想いです。病院において、病棟業務では服薬指

導を中心に患者と関わり、医療ミスの防止や指示書・配役カートの監査などのリスクマネージメントに積極的に取り組んでいく必要があります。またチーム医療では ICT や NST 等において、薬剤師の視点だから言えることや薬剤師にしかできないことに積極的に取り組んでいく必要があると思います。

## ３．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

・後輩学生に・・・

私たちは実習を通して貴重な経験をしました。学生の立場だからこそ感じることや学べたことも多くあり、何事にも積極的に取り組む姿勢をもって実習に取り組んでほしいと思います。

・大学教員に・・・

日誌のフォーマットがバラバラであることは、指導薬剤師の方の負担にもなるのではないかと思い日誌を各大学で統一する必要があると思います。また Web においても使用方法が複雑な箇所は改善し、評価基準を統一・明確化してほしいです。

・指導薬剤師に・・・

学生では指導者側が一番伝えたいポイントに気付けていないことも多くあるのではないかと実習を経験し感じた学生が多くいました。その際には学生側にアドバイス（フィードバック）をおこなってほしいです。また施設上の問題もあるので、指導内容を統一するのは難しいと思うが、同じ病院内でも指導薬剤師の方によって指導内容が異なるので最低限のベースは統一化をしてほしいと思います。学生がどこまでできるのかということも施設により考え方が違うので基準を設けてほしいと思います。その他にも実習している内容がどの SBO に当てはまるのかわからないということがあげられました SBO をより現場に則しているものにすべきであるという意見があげられました。

**「タスクフォースから学生へのメッセージ」**

（名城大学　野田幸裕）

臨床薬剤師がファーマシューティカルケアを実践するためには、患者が抱える薬物治療上の問題点を抽出・解析し、その解決方法を追究・提案できる能力（問題解決能力）を涵養する必要があります。それにはこれからの 1 年間、皆さんが薬局・病院実務実習において経験して習得した臨床的知識・態度・技術、抱いた理想（目標）とする薬剤師象への熱い思いを維持していくこと、SDG において掲げた「スペシャリストの前にジェネラリストの前に人間であれ~薬を介して人と人をつなぐ~」という基本姿勢を決して忘れないことが大切です。「気持ちいい挨拶、臨床（患者さん）を意識する、迷ったら初心にかえる」ことを常に念頭に置き、倫理観と実践力を兼ね備えた薬剤師を目指して下さい。応援しています！！　く(￣△￣)ノ　。

# ＩＤ班　報告書

## １．病院実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

《議論の経緯》

①一人ひとり、カードに自由に意見を書いていった。

②皆で全員のカードを１枚ずつ見ながら、類似しているカードを集めた。

③集めたカードに、単語で短くタイトルをつけ、さらに分類できそうなところはカードを２つの集団に分けた。

④もう一度カードの内容を確認し、タイトルを文章にした。

例）改善点→実習側に改善してほしいこと

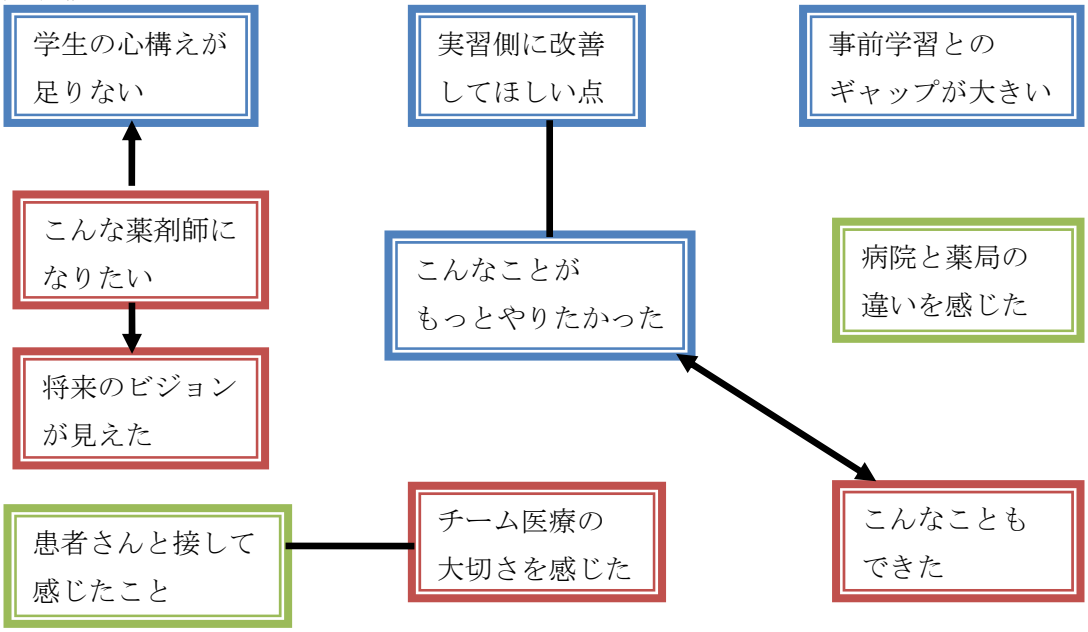
学生の心構えが足りない

チーム医療→チーム医療の大切さを感じた

⑤プラス面は赤色で、マイナス面は青色で、その他は緑色で囲んだ。

⑥関連のある島を線や矢印で結んだ。

《関連図》




《島の内容》

学生の心構えが足りない

- 積極的に行動できない
- 薬剤の知識が足りない

こんな薬剤師になりたい

- 現場の薬剤師の先生たちの熱心さ
- 自己研鑽の大切さ
- オールラウンドな薬剤師も、ある分野のスペシャリストな薬剤師もどちらも必要
- 癌専門薬剤師なのに患者さんからも医師からもすべての質問に答えられていた
- オペ室から ICU、NICU など薬剤師の活躍の場は幅広い

将来のビジョンが見えた

- 病院で働きたくなった
- 病棟業務が楽しかった
- 病院でもっと勉強したくなった

患者さんと接して感じたこと

- 患者さんとの会話から学んだ
- 患者さんとの会話の難しさを学んだ
- 患者さんに病気のことをどこまで伝えたら良いのか悩んだ
- 一人の患者さんを継続して服薬指導できた

実習側に改善してほしい点

- 忙しい時に放置される
- 自習時間が多い
- 実習生は邪魔者？
- 先生によって指導内容にムラがある
- スケジュールが細かい
- 薬剤部内の人間関係に巻き込まれた
- 薬剤師いじめや学生いじめがあった
- 自習するスペースが少なかった
- 全体の業務の流れを把握できなかった
- 実習が忙しい
- 院内製剤がカリキュラム上であまり重視されていなかった
- 化学療法のミキシングができなかったのが心残り
- 体験できなかった項目があったが、やったことにして評価された

こんなことがもっとやりたかった

- 無菌調剤楽しかった
- もっと患者さんと話をしたかった
- 患者さんと接する機会が少ない
- 患者さんと触れ合う機会が少なかった
- 病棟実習をもっとしたかった
- 他の病院も見学できたら良かった
- 抗がん剤の調製は見学だけだった
- 他の実習先がどんな感じか実習中に知りたかった
- 各病棟の患者さんについて(治療、経過等)話し合う機会がほしかった(症例検討のようなもの)
- 実習中は SGD があまりなかった。せっかく他大学が集まったのだしもっと話し合いたかった
- 病院によって体験できない業務がある
- 医師に接する機会がほとんどなかったのが残念

チーム医療の大切さを感じた

- 医療従事者間の信頼関係の大切さ
- 他の医療従事者との関わり
- 医師が治療方針について薬剤師に相談してきていた
- 薬剤師は医療チームの中に入れているのか疑問に思った
- 褥瘡に対するケアを学べた
- 人間関係が重要
- 実際のチーム医療について知れた
- 薬剤師間での患者さんに関する情報共有の大切さ
- 他のコメディカルとの接点が多かった

事前学習とのギャップが大きい

- 治療薬マニュアルではなく、今日の治療薬を使っていた
- 学校で習ったことと差があった
- 化学療法のミキシングの際の緊張感が学校でやった時と違った

病院と薬局の違いを感じた

- ピッキングが意外と暇
- 電カルが見られるので患者情報を多く得られる
- 患者情報を PC で見られて楽だった
- 医薬品に関する情報を自由にみることができた
- 散剤の調剤で帽子をかぶる

こんなこともできた

- 調剤や病棟業務以外の仕事についても知ることができた
- 課題を病院側が作ってくれて勉強ができた
- 看護師の体験ができた
- 薬局にない業務(注射など)が豊富
- 勉強会に参加できた
- 抗がん剤の知識(種類やレジメン)が増えた
- いろいろな施設(検査部など)の見学
- 信頼して調剤を任せてもらえた
- ３つの病院で実習ができた
- 院内製剤を作る機会があった

## ２．これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

・ **自分が理想とする薬剤師像をもつ**

→病院や薬局内のできあがってしまった雰囲気に飲み込まれず、自分自身の目標をもってはたらく必要がある。６年制卒として新しい薬剤師像をつくっていく。

・ **医師と対等に話ができる薬剤師を目指す**

・ **幅広い医療の知識をもったプロフェッショナルを目指す**

→薬の知識だけでなく、医療全般にわたる知識を身につける必要がある。（病態、検査値等）それにより医師と対等にわたりあえる薬剤師が目指せるのでは？

・ **幅広い層のセルフメディケーションに貢献したい**

・ **患者ともっと密に接して積極的に治療に関わりたい**

→病院での薬剤師の存在感が薄いことを実感した。看護師や医師に比べ患者さんと直接関わる時間が短すぎるのではないか。

・ **薬剤師の存在意義を確立させたい**

・ **学会等を通じて存在意義を社会に広めたい**

・ **職域を広げていく努力をする**

→医師、看護師とくらべ病院内、あるいは社会全体において薬剤師の存在価値はあまり認められていないのが現状。（薬剤師って何してるの？薬出してくれるだけじゃないの？など）
薬に関する専門性を生かして、もっと患者さんと直接話す機会を増やしていくことで、
存在意義を確立できるのではないか。またすでに専門知識も豊富で患者さんや医師からの信頼も厚い薬剤師さんも多くいるのに、そのアピールが不足している気がする。
社会全体に薬剤師の存在意義が認められれば、職域も広がる。

## ３．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

・ **現場でしか得られない体験がしたい**

・ **患者さんと接する機会をもっと多くしてほしい**

→服薬指導にほとんどまわらせてもらえない病院もあったという。患者さんと接してこそ学べることがたくさんあるのだから、実務実習ではもっと服薬指導させてほしい。

・ **できない内容は他施設と連携を！**

・ **実習中に地域間で学生同士の意見交換をしてほしい**

・ **機能の異なる病院を何ヶ所か回りたい**

→病院の規模や体制によってできないカリキュラムがでてきているので、他施設と連携してできるだけ多くの内容を学びたい。また自分の実習先と他の実習先で内容にどのような差があるのか把握するために学生同士の意見交換の場があれば良いと思う。

・ **現場とのギャップがあることを意識して事前学習に取り組んでほしい**

・ **後輩に事前学習より早い段階で実習風景を見学させ、具体的なイメージをつかんでもらいたい**

→大学で学んだ治療方針が古い情報であったり、ＯＳＣＥをクリアすれば病院の実務についていけるわけではないことを理解して実習に望むべき。大学での事前学習はあくまで基礎の部分。実際に実習がどのように行われているのか３，４年生が見学する機会があると良いのでは？

・ **学生の希望に応じてオプションを追加してほしい（予備日や期間延長）**
→カリキュラムを日程ぎっちりにつめこまず、学生の興味や希望に応じた予備日をもうけられていた病院があり大変良かったとのこと。
また病院、薬局がどちらも２．５ヶ月という実習期間は適正なのか？という意見も。

・ **実習先の選択肢の幅を広げてほしい**
→地域によっては実習先が思うように選べない場合も。特に地方の人は苦労した。

**「タスクフォースから学生へのメッセージ」**

（大阪大学　平田收正）

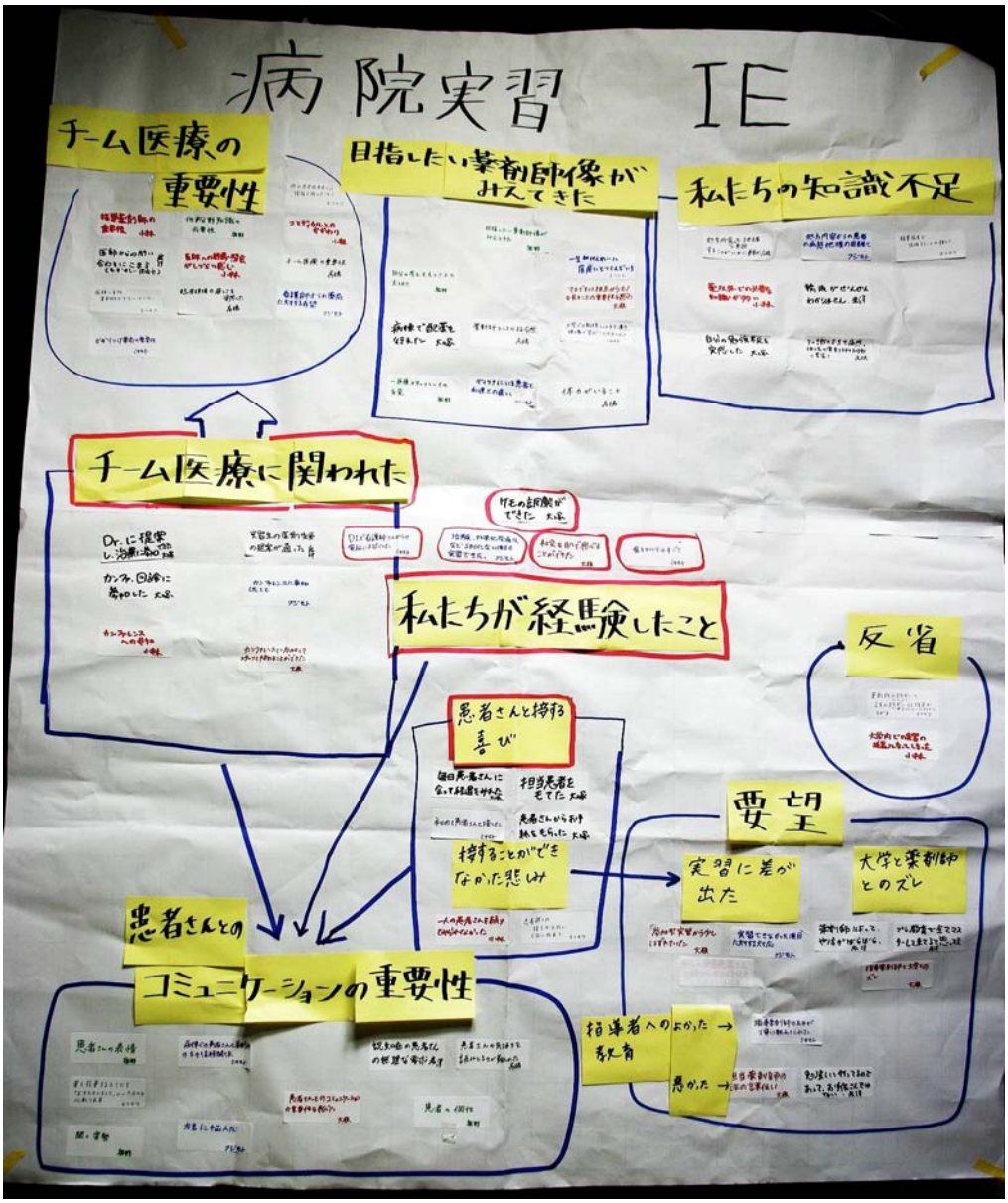
前半の「実務実習を通して印象に残っていること」では、“こんな薬剤師になりたい”、“将来のビジョンが見えた”といった島ができ、皆さんが高い目的意識を持って実務実習に臨んだことが伺えました。それゆえ後半の「薬剤師になって取り組んでいきたいこと」では、実習を通して“自分が理想とする薬剤師像をもつ”ことの重要性に気付き、“医師と対等に話ができる薬剤師”や“幅広い医療の知識をもったプロフェッショナル”を目標として掲げることができ、さらに“存在意義を社会に広めたい”、“職域を広げる努力をする”といった薬剤師が目指すべき医療人としてのあり方にまで思いが至ったのではないかと思います。まさに、頼もしい限りです。

我々大学教員は、同時に挙げられた様々な課題や提案を真摯に受け止め改善に努めることはもちろんですが、皆さんのこういった熱い思いを実現するために、共に薬剤師教育の充実に取り組んで行ければと思います。

# ＩＥ班　報告書

## １．病院実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

我々は、KJ 法により、病院実務実習における経験と今後の改善点をまとめた。島の中心は、私たちが経験したことであり、すべてはそこから派生する流れになった。結論から言えば、実務実習は大変有意義であり、チーム医療への参加、コミュニケーションの重要性を肌で感じることができたという意見であった。いざ現場にいってみると、我々が思っていた以上のギャップがあった。特に、施設によって実習内容に差が出てしまったことや、指導薬剤師との認識のずれがあったなどである。実習に対する要望も今後改善されることを望むが、我々も実習生も実習を通して知識不足であることを、身をもって感じた。これから目標を持って薬剤師として働いていこうという形でまとめた。



----------各島の解説----------

- **私たちが経験したこと**

ケモの調製ができたことや、SBO に無い項目を実習できた、社会を肌で感じることができた、電子カルテのすごさなど、肯定的な意見を集めた。

参加者からは、充実した実習内容に“とても羨ましい”などの発言もあった。

| | |
|---|---|
| カード | ケモの調製ができた |
| | 社会を肌で感じることができた |
| | 治験、外来化学療法など SBO にない項目も実習できた |
| | 社会を肌で感じることができた |
| | 電子カルテのすごさ |

- **患者と接する喜び**

ここでは、経験した事の中から特に患者に焦点を当てた意見をまとめた。たとえば、毎日患者の経過を見られた、担当患者を持てた等である。副題として、接する事ができなかったという意見も出た。一人の患者を続けて見ることができなかったなど、患者との接点が少ないという問題点もあった。

| | | |
|---|---|---|
| カード | 患者と接する事ができた喜び | 毎日患者さんに会って経過をみた |
| | | 担当患者を持てた |
| | | 始めて患者と接した |
| | | 患者さんからお手紙をもらった |
| | 患者と接する事ができなかった悲しみ | 一人の患者さんを続けて見られなかった |
| | | 患者との接点が少ない（特に外来） |

- **患者とのコミュニケーションの重要性**

経験した事や、患者との接する喜びからコミュニケーションの重要性が挙がった。そこでは、患者の表情、信頼関係、個性、患者の言いたいことを聞く姿勢、心配りの重要性などである。

| | |
|---|---|
| カード | 患者の表情 |
| | 薬を投薬するときにもお待たせしましたなどの一言などの心配り必要 |
| | 聞く姿勢 |
| | 病棟での患者と薬剤師の方の信頼関係 |
| | 方言に悩んだ |
| | 患者とのコミュニケーションの重要性を感じた |
| | 患者の個性 |
| | 患者の気持ちを読み取るのが難しかった |

● チーム医療に関わることができた

この島も、経験の一部である。ドクターに提案できたこと、カンファレンスに参加できたこと、実習生の薬剤変更の提案が通ったこと、DI で看護師の電話対応をしたことである。

| | |
|---|---|
| カード | ドクターに提案し治療に参加できた |
| | カンファ、回診に参加した |
| | カンファレンスへの参加 |
| | 実習生の薬剤変更の提案が通った |
| | カンファレンスに参加したこと |
| | カンファレンスに参加してスタッフと関わることができた |
| | DI で看護師からの電話に対応した |

● チーム医療の重要性

チーム医療に関わった経験から、重要性という島が見えてきた。コメディカルとの関わりや、他分野の知識の必要性、かかりつけ薬局の必要性など、何かしらの連携という点での重要性が見えてきた島でもある。それは、厳しさや困ったことなど、今後、改善しなければならない事が含まれている。

| | |
|---|---|
| カード | 指導薬剤師の重要性 |
| | 医師からの問い合わせに困る |
| | 病棟に案外、薬剤師が出て行っていない |
| | かかりつけ薬局の重要性 |
| | 他分野知識の必要性 |
| | 医師への疑義照会がしにくい感じ |
| | 臨床現場の厳しさを実感した |
| | 他の医療従事者との情報交換の大切さ |
| | コメディカルとの関わり |
| | チーム医療の重要性 |
| | 看護師からの薬局に対する要望 |

● 目指したい薬剤師像が見えてきた

実務実習を経験した事から、職場でどうあるべきかと言う意見が多かった。自分の考えを持つことの大切さや、病棟で配薬を行えたこと、一医療スタッフとしての自覚、体力が必要であること、様々な視点から物事を見ることが必要であるなどの意見である。

| | |
|---|---|
| カード | 目指したい薬剤師増が見えてきた |
| | 自分の考えを持つことの大切さ |
| | 病棟で配薬を行えた |
| | 一医療スタッフとしての自覚 |
| | 薬剤師としての使命感 |
| | デイケアにいる患者と私たちとの違い |
| | 一生懸命医療に取り組んでいる |
| | 様々な視点からものを見ることの重要性を感じた |
| | 大学での勉強とはまた違う、現場で学ぶことの大切さ |
| | 体力がいること |

- 私たちの経験不足

やはり、学校で学ぶことと実際は違うと言うことである。薬以外での必要な知識が多いことや、処方内容から病態を把握する困難さ、現場の薬剤師を見てわかる自分の知識の無さ等である。

| | |
|---|---|
| カード | 処方内容と意図を把握することがいかに重要か |
| | 薬以外での必要な知識が多い |
| | 自分の勉強不足を実感した |
| | 処方内容から患者の病態把握の困難さ |
| | 輸液が全然わかりません |
| | 知識の不足を実感。現場の薬剤師の知識の豊富さ |
| | 服薬指導で説明することの難しさ |

- 反省

大学での実習の延長になってしまった、うっかりミスをしてしまった（薬剤師と学生の間違えの種類の違い）である。これは、多分に経験の不足や、知識の不足から出てしまったと考えられる。

| | |
|---|---|
| カード | 薬剤師の間違い（うっかり）と学生の間違い（気づかないで間違う）は性質が違う |
| | 大学内での実習の延長になってしまった |

- 要望　（私たちから指導薬剤師へ）

この島は、大変重要である。今後、後輩のためにも生かしていってほしい事をまとめてある。内容は、一つ目に、実習に差が出てしまったことで、意見としては、参加型実習から少し外れてしまったこと、実習できなかった項目があった、などの意見である。

二つ目は、大学と指導薬剤師の認識のずれである。薬剤師によって業務のやり方がばらばらで、誰にあわせて良いかわからない、プレ教育ですべてマスターしていると思っている、などである。

三つ目は、良かったことと悪かったことで、指導薬剤師が丁寧に教えてくれた、担当薬剤師の言葉遣いが悪かった、お手伝いさんになってしまった等である。

<table>
<tr><td rowspan="8">カード</td><td colspan="2" rowspan="2">実習に差が出た</td><td>参加型実習から少し外れていた</td></tr>
<tr><td>実習できなかった項目に対する対応</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">大学と薬剤師とのずれ</td><td>薬剤師によってやり方がばらばら</td></tr>
<tr><td>プレ教育ですべてマスターしてきていると思っている</td></tr>
<tr><td>指導薬剤師と大学のずれ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導者の教育</td><td>良かった</td><td>指導薬剤師の先生が丁寧に教えてくれた</td></tr>
<tr><td rowspan="2">悪かった</td><td>担当薬剤師の先生の言葉遣い</td></tr>
<tr><td>勉強に行っているのであって、お手伝いさんではない</td></tr>
</table>

最後に、これらの内容はすべての実習機関に伝達され、後輩の実習環境がよりよいものになる事を、一同願っております。

## ２．これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

### ■ 患者さんに指導をもっと行っていける薬剤師になりたい

・病院・薬局それぞれにおいて実習を行なっていく中で、まだまだ薬剤師の臨床現場における地位が低いと感じることが多かった。また、医療現場で働くためには、様々な知識を必要とすることを理解した。ゆえに、患者さんにもっと近い立場で接することが出来るためには、接遇や知識の面で磨きをかけ、責任をもって医療にとり組めるようになるべきだと感じた。

### ■ 病院・薬局・地域の関連性をもっと強くしたい

・各々の地域で実習をする中で、薬局と地域との結びつきを強く感じた。これからの薬剤師は病院・薬局薬剤師と区別するのではなく、地域を含め、それぞれ３つが連携していくことが重要だと考えるためである。

・病院・薬局の薬剤師会がそれぞれ分かれているということもあり、病院・薬局の薬剤師間の連携体制が整っていないと思われる。

### ■ 専門的になる

・薬剤師として働くからには、薬の専門家として専門薬剤師等の資格を取得して、さらに医療に貢献したい。

### ■ 患者さんによりそえる薬剤師

・これからの薬剤師に大切なモノは、患者さんによりそうことの出来る薬剤師になることだと感じた。以下にも示すように、責任の取れる薬剤師、信頼される薬剤師、さらに積極性のある薬剤師になることで、患者さんによりそえる薬剤師になれると感じる。

■ 医師に提案→処方権を得られるようになりたい

・医師に薬に関すること等、薬剤師として提案できるようになりたいと感じた。その背景には、前述にもあるように薬剤師の臨床現場における地位の低さが関わっている。医師に信頼されていない現状が見え隠れする中、薬剤師として医師に提案することはまだまだ難しいと実務実習を通して感じた。

　その話の中で、薬剤師が処方権を得る動きがあるということが挙げられた。また、看護師にも処方権取得やそれを法制度化する動きがあるということが挙げられた。しかし、処方権を得る前に、薬剤師として私達にはしなければいけないことが多々あると考える。まずは責任の取れる薬剤師になること、信頼を得られる薬剤師になること等、処方権取得を掲げる前に、薬剤師としてのきちんとした土台を築く必要がある。その後、将来処方権を得ることが出来ることを望むべきだと考えた。

■ 積極性をもつ

・薬局内（調剤室）にこもって仕事をするのではなく、積極的に外に出て、薬剤師として職務を全うすることが必要だと感じた。

・薬剤師としての地位向上のためにも、積極的に医療に参加することが重要だと感じる。

■ 信頼を得るために薬以外の知識をつける

・実習を通して、まだまだ薬剤師はチーム医療の中や医療スタッフとの関わりの中での地位が低いと感じた。カンファ等においても薬剤師としての職能を十分に発揮できる環境に無いと感じる。医療の中で、薬剤師としての職能を発揮するためには、薬の専門的知識だけではなく、それ以外の知識（他職種の専門的知識等）が必要となってくると感じた。信頼を得て薬剤師として十分に医療に貢献するためには、これらのことが必要だと感じる。

■ 仕事ぶりをアピール

・「薬剤師になるためには大学に入るのは難しいけれど、薬剤師はどのような仕事をしているのか」と尋ねられたことがある。

・患者さんは体の具合が悪いときには病院に行くけれど、薬局には来ない。それは、薬剤師以外のヒトは薬剤師という職業について全く知らないからだと考える。薬剤師は患者さんの前に積極的に出て行く機会が少ないと感じるので、もっと周りのヒトに周知してもらうためにも、仕事ぶりをアピールしていくことが重要だと感じる。

■ <u>責任</u>をとれる薬剤師

・これまでは薬に関する医療ミス等では薬剤師が責任を問われることは無かった。全て医師や看護師等の責任にして、薬剤師は見て見ぬ振りをしていたと感じる。薬剤師が表舞台に上がるためには、もっと信頼されるためには、薬剤師としての職務にもっと責任を取るべきだと感じる。

・責任を取れる薬剤師になることで、他の医療スタッフからも信頼され、患者さんからも頼りにされる薬剤師となると感じるからである。

■ 実習で感じた良かった点・悪かった点を生かして教育にも携わる

・私達６年制の１期生が感じたことを踏まえて、これから薬剤師として働いていく上で、指導薬剤師などの教育面において関わることで、後輩により良い実習等の教育環境を整えていけるようになりたいと感じた。

## ３．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

＜大学の先生へ＞

■ もっと臨床に近いことを大学でもやっていきたい

・大学で学んでいることが、実際の現場では通用しないことも多くあると感じた。現場で使える薬剤師になるためにも、最新の現場のことを大学でも教えて頂きたいと感じた。

■ 他職種との関係を学生のうちから

・実習をする中で、他職種の業務や必要な知識というものを私達は知らないと感じた。学生のうちから他職種の方との交流を通して様々なことを学んでいく必要があると感じる。医療現場に出ると、他の医療スタッフとの関係がとても重要となってくるためである。もっと薬剤師以外の職種にも目を向ける必要があると考える。

■ 情報の共有、学生も参加

・今回のような全国の大学生が集まるフォーラムをもっと積極的に行なって欲しいと要望したい。今回のフォーラムを通して、他大学と交流を持ったことで感じたことや得たことは大きい。このような場における情報の共有は、今後のためにも私達自身のためにも積極的に行なわれるべきだと強く感じた。それは学生が参加することで、大学教員やその他関係者の方とは違った、学生ならではの素直な意見を発信することが出来ると感じるからである。

■ 学生にも全国統一のアンケートを

・関東地区の大学や特定の大学に対する学生アンケートは行なっているが、地方の大学に対してのアンケートは行なわれていない。地方大学の学生の意見ももっと聞いて欲しいと要望したい。それは、関東や主要都市では感じることの出来ないような問題点を、アンケートによって抽出することが出来ると考えるからである。

■ 他大学との意見交換の場が欲しい

・自身の大学だけを見ていては、本当の実務実習とは言えないと考える。それは、他大学との交流の場を通して周りを見ることで、自分の問題点や今後の課題等、様々なことを感じ取ることが出来ると考えるからである。また、他大学の学生の意見を聞くことで、自身を改め、将来に向かって互いに切磋琢磨できると感じたからである。

＜指導薬剤師の先生へ＞

■　もっと開いた環境を

・実務実習を終えて、薬剤師の実習受け入れ態勢の低さを痛感した。他の医療スタッフからの風当たりの強さを感じた。私達６年制の薬学部実習生を快く受け入れてくれるような環境を作って欲しいと願う。

・私達は「学ぶ」という志を持って実習を行なっているのだから、それにかなう実習環境を整えて欲しい。

＜後輩へ＞

■　下の学年にフィードバック

・より質の高い実習をこれから行なっていくためにも、医療現場の実状や心構え等、医療現場に出る上で知っておくべきことを後輩に伝えていく必要があると感じた。また、積極的に実習に参加して欲しい。

・今回のような全国の大学生が集まるフォーラムに積極的に参加して欲しい。今回のフォーラムを通して、他大学と交流を持ったことで感じたことや得たことは大きいと感じたからである。

「タスクフォースから学生へのメッセージ」

（福山大学　吉富博則）

初めての実務実習での「患者と接する喜び」を熱く語り、逆に経験できなかった悔しさを語る学生には「その悔しさ」を共感しながら議論を進める皆さんの傍で、「この学生たちは、すごい！」と、ただ感心していました。それは、皆さんの実務実習への真面目な取り組みが伝わってきただけではありません。初めて出会った学生同士が、衒いも躊躇もなく SGD に参加し、論理的にプロダクトを作っていくことが新鮮な驚きでした。全国の薬学教育に PBL システムが取り入れられ、「6 年制薬学教育」が着実に成果を上げている証しなのかもしれないと、少しうれしくなりました。

皆さんが最後にまとめた将来への取り組みには、「患者に寄り添える薬剤師になる」との感性を大事にしながらも、薬の知識を増やすだけでなく、更に多方面の能力に関しても自己研鑽して行こうとの強い意志が現れています。今の気持ちを持ち続ける限り、皆さんは必ず良い薬剤師になることが出来るでしょう。本当に楽しみです。

長期実務実習の問題点に関する皆さんの提言は、我々大学の教員が真摯に受け止めて責任を持って改善に努めますが、「よき後輩を育てる」ために、6 年制 1 期生の皆さんにも今後の御協力をお願いします。

Ⅱチーム

# 薬局実習を通して
# 印象に残っていること

Ⅱチーム

ⅡＡ班

ⅡＤ班

ⅡＢ班

ⅡＥ班

ⅡＣ班

チームでの発表会

# ⅡＡ班　報告書

## １．薬局実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

「実務実習（薬局実習）を通して印象に残っていること」について KJ 法を用いて抽出し、整理した。以下に、我々の班の議論の経緯とプロダクトをまとめた。また、島の名札を◇、各島の中で作ったさらに小さな島の名札を➢、各カードに記載された意見を●で表した。

◇　人と人とのつながり

- 人間関係
- 薬剤師の先生の勉強熱心なとこ
- 指導薬剤師さんの人の良さ
- 指導薬剤師だけでなくスタッフ全員が温かかった
- 患者さんの差し入れ（野菜・パン・お菓子）
- 指導薬剤師さんのモチベーションが様々
- クラークの重要性
- 事務さんのアシストが素晴らしかった
- 食事
- 薬剤師さんに挨拶した時、無視された

指導薬剤師さんをはじめ、その他の薬剤師さん、事務さんなど薬局内のスタッフ、または来局される患者さんの雰囲気や人柄、さらにはスタッフ間の人間関係は実務実習を通して最も印象に残っていることである。スタッフや患者さんに温かい態度で接して頂けると気持ちよく実習に取り組めるが、冷たくされると実習のモチベーションを維持するのが困難になることもある。

◇　地域と連携していた

- 地域との連携
- 地域との連携が重要だと感じた

➢　学校とのつながり

- 学校薬剤師

➢　病院とのつながり

- 病院との連携
- 医師への対応が難しい（疑義）
- ガン患者での病院との連携
- 薬局とホスピスと在宅の連携

➢　在宅への貢献

- 在宅医療
- 在宅の現場での薬剤師の活躍
- 薬局とホスピスと在宅の連携

在宅医療における薬剤師、学校薬剤師など薬局とは異なるフィールドでの薬剤師の活躍を目の当たりにすることが出来た。また、薬局は処方元の病院と上手くコミュニケーションをとることが業務において必須である。薬局薬剤師にとって地域と連携していくことは非常に重要である。

◇　服薬指導のやり方

- 服薬指導
- 服薬指導の難しさ
- 患者情報の収集が病院に比べて難しい
- 服薬指導の大変さ
- 患者さんのことを考えた対応

➢　特殊な患者への服薬指導

- 小児の服薬指導は難しい
- 外国人用服薬指導ツールの作製
- 外国人！！が来る！
- 方言の大変さ

患者さんと接する“服薬指導”は最も印象深い実習項目である。服薬指導の難しさ、大変さを実感できた。特に、用法・用量など一般成人とは異なる点が多々ある小児、外国語や方言など言葉の壁がある患者の場合はさらに難しかった。

◇　施設間の違い

- 施設の違い
- 調剤
- 門前薬局　扱う薬がかたよる
- 軟膏
- 診療科によって処方の内容に特徴があるので門前薬局の場合、調剤する薬剤にかたよりがあった
- 薬局ごとの違いが大きい　近くにある病院に依存
- 薬局によって実習内容に違いがあった

➢ 過誤防止のための工夫

- ハイテクな鑑査システム
- インシデント防止のための工夫

➢ OTC

- 伝統薬
- OTC の少なさ
- OTC の有無

薬局は施設間により大きな違いがあり、実習内容も薬局の特色を反映したものになる傾向が強かった。特に、“調剤”は薬局のそばにある病院の処方内容に依存しているため、採用医薬品の種類や数には偏りが大きかった。たとえば、皮膚科の門前薬局であれば調剤の大半を軟膏が占めているなどである。また、過誤防止の工夫や OTC の取り扱いにも薬局間で大きな違いがみられた。

◇　薬局はサービス業だと思った

- 顧客満足度が重要だと感じた
- 時間に限りがある！患者様を待たせない！！
- 時間がない
- 予製
- 色々な症状の患者さんがいて勉強になった

薬局にとって来局される方は“患者”であると同時に“顧客”である。同様に、薬剤師も医療人であると同時にサービス業の従事者である。患者さんを待たせず、効率よく業務を行うため“予製”が存在し、個々の患者さんのニーズにあったサービスを提供する必要があることを知った。

◇　長期実務実習ならでは

- 業務のお手伝いという感覚があった
- 在庫管理が細かい
- GE 薬品が多い
- 服薬指導の多さ
- 「患者様への貢献」「患者様のために」というのはきれいごと！？
- 薬剤師さんと変わらない仕事を任された
- 現場に出るイメージがわいた
- 勉強会
- 大学で習うことと現場でのギャップを感じた

以前までの短期間の実習とは異なり、2.5 ヶ月という長期にわたる実習だから気付く事や体験させていただける事が多々あった。ただし、学校で学ぶ“理想”と現場で感じる“現実”にギャ

ップがあることは否めない。しかしながら、現場の空気を肌で感じることができる実務実習は大変有意義であった。

◇　法律によって様々な制約がある

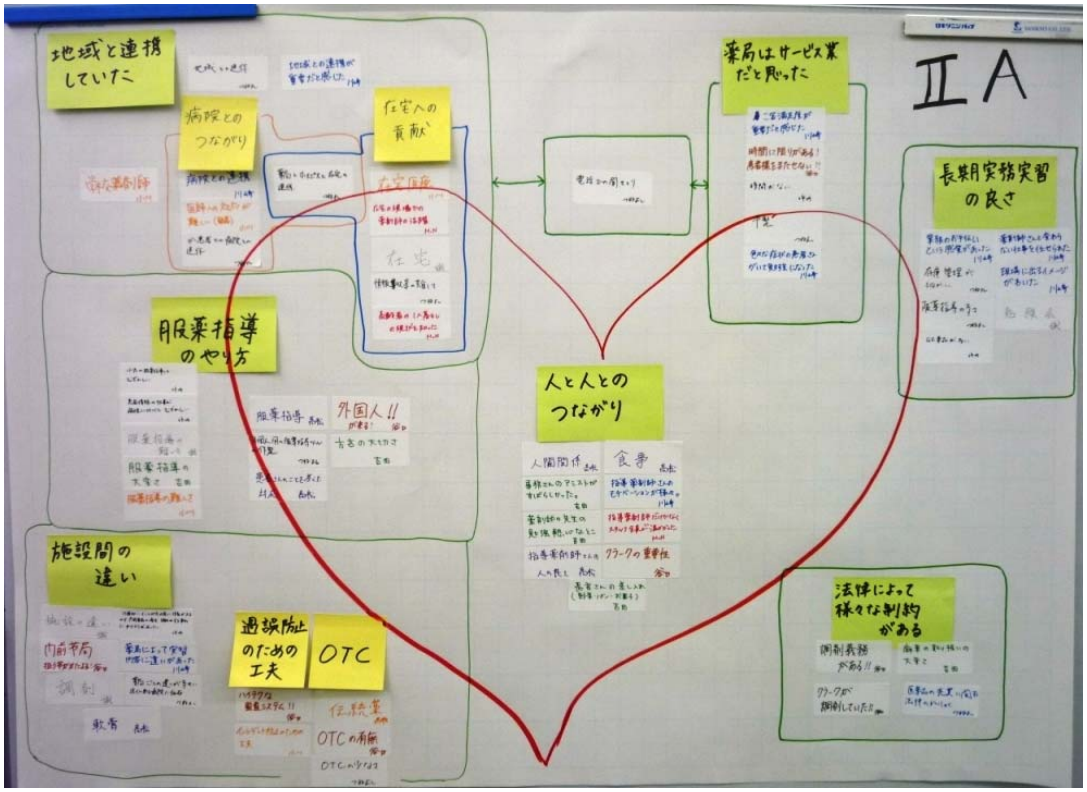
- 調剤義務がある！！
- クラーク（事務）が調剤していた！！
- 麻薬の取り扱いの大変さ
- 医薬品の売買に関する法律の解釈

薬局（薬剤師）は薬剤師法、薬事法など様々な法律の上に成立するものであり、薬事関係法規について身をもって学ぶことが出来た。

◇　その他（孤独なカード）

- 電話での聞き取り

疼痛緩和治療を受けるガン患者さんへの電話での聞き取りは、医師も薬剤師も情報を得ることができない受診間の情報を得ることになり、電話で服薬タイミングを伝えることができることや、副作用のモニタリングもできるという点で、印象に残った。※＜地域と連携していた＞と＜薬局はサービス業だと思った＞に関連しているが、どちらにも属さないと考えた。




我々は、「薬局実習を通して印象に残ったこと」について話し合ったところ、全てに＜人と人とのつながり＞が関わっていると考えた。実習では、薬局のスタッフ、患者さんやその家族、地域の方、病院関係者など様々な人が薬局に関わっており、薬剤師になるにあたって人間同士のコミュニケーションが最も重要であるということを学んだ。そこで、模造紙の中央に配置し、他の島にもかかるように島を囲んだ。また、＜人と人のつながり＞をわかりやすく表現するために囲みをハートにした。

次に、実習項目である「地域で活躍する薬剤師」、「服薬指導」、「調剤」、「カウンター実習」を通して印象に残ったことを模造紙の左側に配置し、＜地域と連携していた＞、＜服薬指導のやり方＞、＜施設間の違い＞とまとめた。この中では、実習できて有意義であったという意見だけでなく、施設間の違いで実習内容にばらつきがあり、実習が不十分であったという意見もあった。

模造紙の右側には、実際の現場において実習することで感じられたことを、＜薬局はサービス業だと思った＞、＜長期実務実習ならでは＞、＜法律によって様々な制約がある＞とまとめた。これらは、教科書では感じ取ることが出来ない、現場独特の考え方や現実問題について肌で感じたものであった。まさしく、長期実務実習ならではの印象に残っていることである。

## ２．　これから 6 年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

「薬局における実務実習を通して印象に残っていること」の抽出を行った後、「これから 6 年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと」および「実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと」について話し合った。

「これから 6 年制卒の薬剤師となって取り組んでいきたいこと」に関しては、病院・薬局によらず、将来どのような薬剤師を目指していきたいかということについて意見を出し合った。

- 薬剤師という職業に自信をもつ
  チーム医療や地域医療に積極的に参加し、薬のスペシャリストとして、患者をはじめ他の医療スタッフにも、より頼りにされることを目指したい。
  地域医療では、在宅医療において中心的存在になることを目指したい。

- 親しみやすく愛される薬剤師になる
  患者が不安に思っていたり、悩んでいたりすることを相談しやすいような薬剤師になりたい。そのためにはまずは挨拶をしっかり行う、笑顔を忘れないといった、基本的なコミュニケーションから始める。（但し、笑顔に関しては TPO をわきまえることも必要）

- 患者のために行動できる薬剤師になる
  チーム医療の中心にいる患者を第一に考えた医療を提供するべきである。特に薬物治療において問題点はないか、よりよい治療法はないか等、常に検討を行うことが必要。

- 患者の薬識向上・アドヒアランスを得る
  薬物治療における情報提供をしっかり行うことで、患者が自身の疾患や治療に関する知識を深めることができ、治療に対する意欲の向上にもつながると考えられる。

- 就職して即戦力になりたい
  5 ヶ月にわたる長期実務実習を経験したことで今までの薬剤師よりも、より即戦力として働くことができるのではないか。

## ３．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

「実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと」に関しては、意見を伝える対象ごと(学生・指導薬剤師・教員・大学)に分類した。

学生へ

- 実習に対して積極的に取り組む、やりたいことを明確にしておく

　現場でしか経験できないことがたくさんあるので、積極的に参加する姿勢は大切である。また、限られた期間で具体的にどんなことを体験したいのか明確にしておくことで、より充実した実習になると考えられる。

指導薬剤師へ

- 話しかけやすい環境を増やしてほしい

　業務が忙しく、時間がない中で指導していただいていたのは理解しているが、長時間放っておかれたり、質問したいのに話しかけづらいということがあった。無駄な時間を過ごす、解決したい疑問も解決できないといった状況はできるだけ排除したい。

教員へ

- 個別対応をしてほしい

　面談の頻度は学生によって調整すれば良いと考えられる。教員が学生に応じた対応をしてくれることで、実習の継続が難しくなる等の問題が生じたとしても解決できるかもしれない。

大学へ

- 実習内容の統一が必要

　学生によって実習内容に極端な差があることは好ましくないが、興味のあることに関しては個人によってさまざまである。したがって、実習施設と学生のマッチングを行う際には、最低限実習で行いたいことについて希望をとってほしい。さらに、途中でフィードバックを行うことで、問題点を把握し解決することにつながる。

- いろいろな施設での業務をみてみたい

　医療機関によって扱う薬剤や業務の内容も異なるため、複数の施設で実習を行いたい。

**「タスクフォースから学生へのメッセージ」**

（広島大学　小澤孝一郎）

　この班の学生は，アイスブレークの他己紹介の時から明るい雰囲気の中で話し合う，活発で素晴らしいメンバーでした。その成果はプロダクツに現れています。その一つとして「実務実習を通して印象に残っていること」において，薬局の神髄である＜人と人のつながり＞を中心に位置づけ，そしてそれを表現するためにハートで島と島を繋げていることが挙げられます。その上で，＜地域と連携していた＞や＜薬局はサービス業である＞を島の名札として挙げています。この＜薬局はサービス業である＞という表現はともすると誤解されるかも知れませんが，その中の一つひとつのカードを見て頂くと，メンバーはきちんと薬局業務の本質を見抜いています。同様な事は，次のテーマのプロダクツにも現れており，６年制卒の薬剤師として取り組んで行きたい事として，「薬剤師という職業に自信を持つ」「親しみやすく愛される薬剤師になる」などを第一として掲げています。これらを含め全体を通して，実習中には辛い事や困った事も多々あり，施設間での内容の差など少なからぬ不満も持ったかと思いますが，それらを見事乗り越えた若い学生達から大人の私が数々の事を教えられ，「本当に有り難う」と心から伝えたいと思います。

# ⅡＢ班　報告書

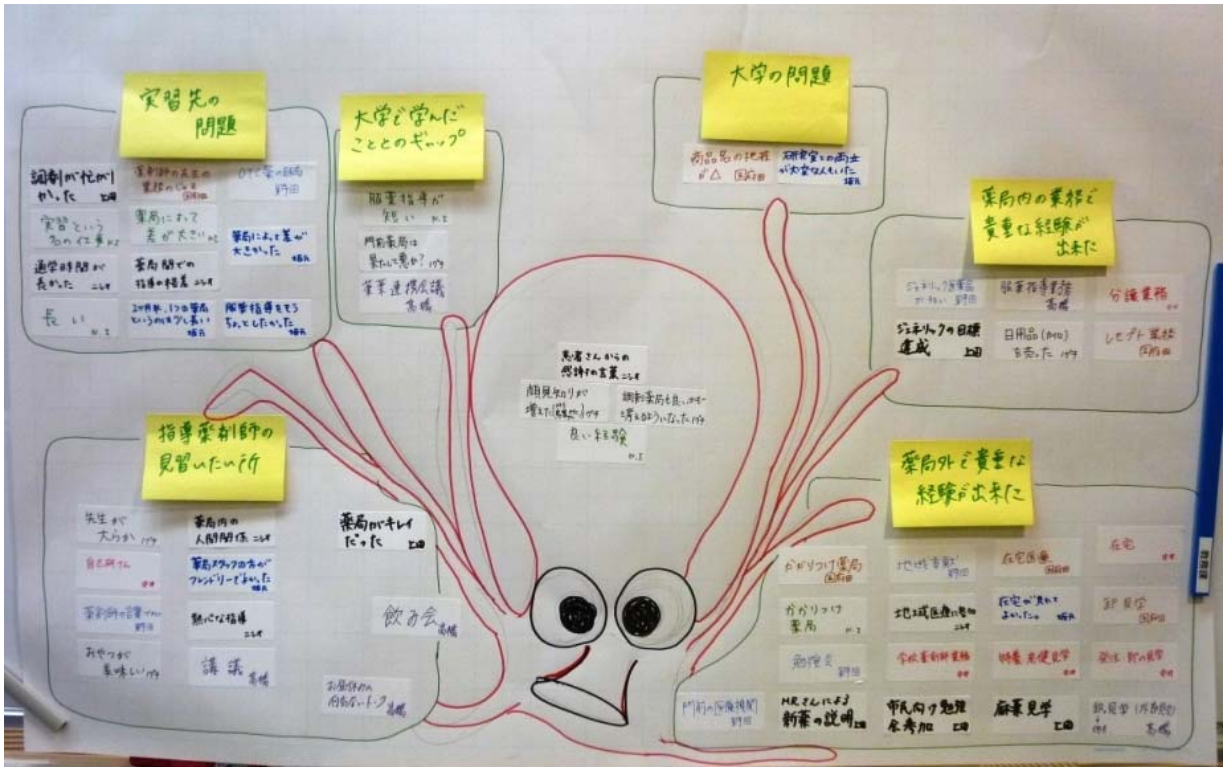
## １．薬局実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

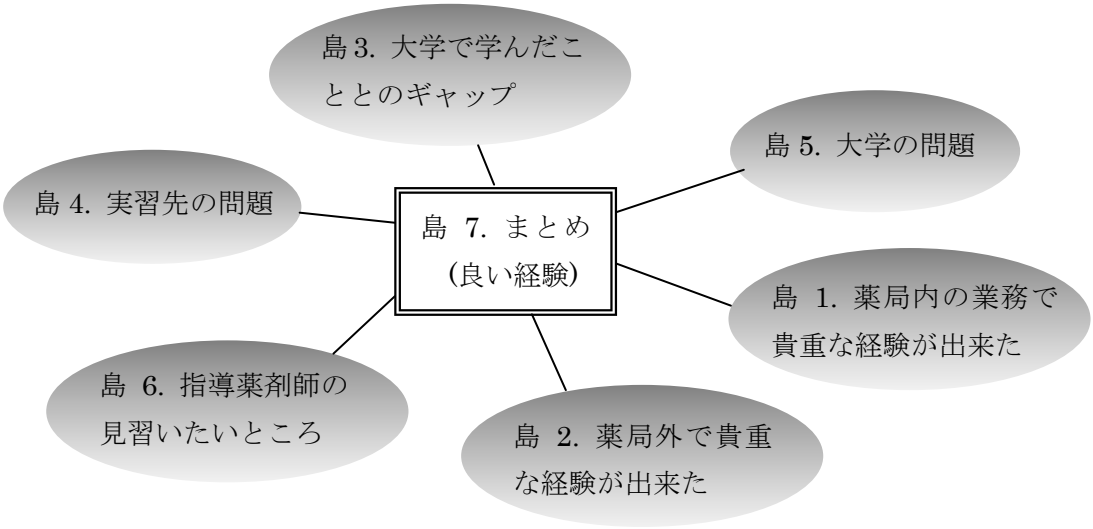
「薬局実習で印象に残ったこと」をテーマに、KJ 法を用いて学生一人一人がカードに意見を書き、その意見の背景や理由を聞きながら情報を整理し、最終的には 7 つの島に分類して図式化し、班の意見としてまとめた。

まず多く挙げられたのは、薬局実習を通して、薬局内および薬局外で貴重な経験ができたという意見だった(島 1, 2)。大学では学べないことを実際に体験でき、薬局薬剤師がどのように地域と関わり、貢献しているのかを知ることができたのは非常に良かったということになった。一方、大学で学んだことと、実際の医療とのギャップが大きく、戸惑ったり考えさせられたりしたという意見もあった（島 3)。

実習の実施体制や指導内容に関しては、不満を感じた学生も多いようであった。調剤業務が忙しく学習できる時間が減ったり、薬局によって学習できる内容に差が見られたりと、実習先の問題として多くの意見が挙がった（島 4)。また、実習生を送り出す大学側に対しても、改善を求める声が聞かれた（島 5)。学生自身が自ら学び、努力しなければならないのは当然であるが、学生にとってより学びやすい実習になるように、改善できるところは改善していくべきだという活発な議論が行われた。とは言うものの、薬局薬剤師の先生方と接する機会を頂き、是非見習いたいと感じた点は多く、自らの目標とする薬剤師像の形成につながったので、大変有意義であったという意見も多かった（島 6)。

薬局実習全体を通して、良かった点や、改善が必要な点など、様々な意見があったが、患者さんから感謝の言葉を頂いて嬉しく感じたり、将来を考えるきっかけになったりと、非常に良い経験になったということでまとまった（島 7)。図としては、島 1～6 のすべてが島 7 につながるという形になった。






以下、プロダクトの内容を示す。

《島 1. 薬局内の業務で貴重な経験が出来た》

・ジェネリック医薬品が多いことを実感
・ジェネリック医薬品の推進のため目標を掲げ、その達成を目指していた
・服薬指導業務をしっかり学ぶことができた
・日用品（カイロ）の販売（リウマチの患者さんにすすめて）
・分譲業務、レセプト業務の体験

《島 2. 薬局外で貴重な経験が出来た》

・かかりつけ薬局の意義を実感
・地域貢献
・MR さんによる新薬の説明、勉強会
・門前の医療機関との関わり
・在宅医療、麻薬見学
・市民向け勉強会
・特養・老健、卸、発注の見学や体験
・学校薬剤師業務

《島 3. 大学で学んだこととのギャップ》

・実際に行われている服薬指導は、思ったより短かった
・門前薬局は良くないものだと習ったが、実際はそうでもないように感じた
・薬薬連携会議に参加したが、予想とは違い、病院と薬局合同の勉強会にすぎなかった

《島 4. 実習先の問題》

・調剤が忙しかった
・実習という名の仕事のように感じた
・通学時間が長かった
・1 つの薬局で 2 か月半という期間は長い
・薬剤師の先生の業務の邪魔になっていると感じた
・薬局によって指導内容の差が大きい
・OTC 薬の販売、服薬指導があまりできなかった

《島 5. 大学の問題》
・大学で商品名を習わないので、その把握が大変だった
・研究室との両立が大変な人もいた

《島 6. 指導薬剤師の見習いたいところ》
・自己研鑽を怠らず、勉強熱心
・おおらかさ（美味しいおやつをくれるなど余裕を感じた）、フレンドリー
・飲み会やお昼休みでの会話から、苦労話も聞くことができた
・事務の方も含め、薬局内の人間関係が良かった
・熱心な指導や講義　・言葉遣い　・薬局がきれい（患者さんのことを考えている）

《島 7. まとめ》
・患者さんからの感謝の言葉　・患者さんや卸さんなど、顔見知りが増えた
・調剤薬局も良いかもと考えるようになった　・良い経験

## 2．これから 6 年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

KJ 法により「指導薬剤師の見習いたいところ」という島に多くの意見が集まったので、それをもとに「これから 6 年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと」をまとめました。

・自己研鑽　・薬剤師の積極的な指導
・実習生が学べる環境づくり　・薬剤師の地位向上
・コミュニケーション能力（患者の心をつかみ、打ち解けやすい薬剤師）
・積極的に治療に関わっていく→薬を中心に　・他の医療関係者について知る（お互いに）
・実習生にやりがいを伝えたい
　患者との信頼関係、かかりつけ薬剤師
・幅広い知識をもった薬剤師（薬についてだけではなく、病態、検査値や日々の健康法 etc）

## 3．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

「実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと」は、実習で私達が感じたことや反省点などをもとにまとめました。

大学教員、指導薬剤師へ
・薬局間での差が大きい→複数の薬局で連携（特定の診療科だけではなく、総合病院の門前の薬局なども体験したい）
・個人経営の店舗でも地域などでグループをつくって学習のサポートを
・ネットワークの形成
・ドラッグストア実習の検討（11 週のうち何週か体験してみたい）
・実習中は実習に集中させてほしい（研究室の先生の理解）

学生へ
・商品名と一般名の一致
・積極性→自分から学ぼうとする姿勢
・薬理と病態を関連させて理解させたほうがいい（授業を大切に）
・自分の興味のない職業でも最低限のマナーを（学ばせてもらっているという意識）

私達の班では積極的な意見が多く、せっかく 11 週間も実習期間があるので１つの薬局だけではなくいくつか周ってみたいという意見や、在宅やドラッグストアも経験したかったという意見も多く出ました。複数の薬局を経験することで薬局間による実習の質の格差も改善されるのではないかと思いました。

6 年制卒の第一期生として、私達が現場に出て指導する立場になった時に、今実習生として感じていることを忘れないでいたいと思いました。

また、実習前にあらかじめ商品名、病態、臨床検査値の知識をつけていけば、もっと実のある実習ができたのではないかという意見も出ました。この点は、後輩にも伝えていくべきことだと思いました。

学生も受け身の立場ではなく、積極的に学ぼうとする姿勢を見せることで、指導薬剤師の教え甲斐も出るし、結果としてたくさんのことが吸収できると思いました。

実習を通して、良かった点・不満に思った点たくさんありましたが、社会にでればそれは当たり前にあることだと思うので、「働く」ということの厳しさも実感できて、すべてを含めていい経験になりました。

実習は学習をする場ですが、それとともに私達が将来を考える重要なきっかけとなると思います。実習での経験が私達の将来決定を大きく左右し、また病院や薬局での業務を体験できるのも最後になる可能性もあるので、私達の班では、学生の立場だからこそ「今しかできないことをしたい」、多くのことを経験させてほしいという結論にいたりました。

**「タスクフォースから学生へのメッセージ」**

（帝京大学　小佐野博史）

学外の学生さんとの WS ということで、とても楽しみにしていました。今回参加された学生さんからの声は、実は長期実務実習の成果を検証する上で最も重要なことであることを改めて感じました。学生さんの視点の鋭さ、いかなる環境にあっても、今しかできないことなので、何が何でも自分のものにしよう、という姿勢、そして報告書には具体的に書かれていませんでしたが、自分たちが経験していやだと思ったことは、決して後輩の実習でしないようにしよう、という意見に心を打たれました。学生さんの真の声って、もしかすると学内で収集することはとても難しいのではないか、と感じました。ⅡＢ班の学生さん、みんな積極的で、討論に引き込まれあっという間の 2 時間でした。実りある討論の成果が実現できるよう、今後も応援し続けなければいけない、と感じた１日でした。

# ⅡＣ班　報告書

【はじめに】

平成 18 年度入学生より薬学教育が 6 年制に移行し、新たに５ヶ月の体験型実務実習がカリキュラムに導入された。既に初年度実務実習の第一期、第二期が終了しており、今後の課題も明らかになってきている。本ワークショップは、様々な施設で実習を終えた学生たちが各自の成果について議論し情報を共有することで、学生からの実習へのフィードバックを集約することを目的とする。

## １．薬局実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

薬局実習で印象に残ったことについて KJ 法により情報を収集・討議・分類した。

プロダクトの画像を下記に記す。

画像：「薬局実習で印象に残ったこと」のプロダクト

＜議論の経緯＞

大きく分類されたものは、『様々な業務を経験』『人との関係性を築くそれが「仕事」』『実習生の声』であった。実習を通して『様々な業務を経験』することで『人との関係性を築くことが「仕事」』であるという意識が学生に芽生えたことが分かった。

『様々な業務』では、在宅、病院との連携および OTC 販売など、想像以上に「地域との関わり」が大きいことが分かった。また、学校薬剤師や卸の見学そして患者への服薬指導などの「貴重な実務体験」をすることで日々の勉強の重要性について再確認することができた。服薬指導では患者情報を得ることが難しく、薬以外の知識が必要だという意見や、世間話の能力も大切だったと

いう意見などがあり、コミュニケーションの難しさをそれぞれの学生が感じていた。また、実習中に人間関係に悩んで辛かったという意見や、逆にとても優しく接してもらい安心して実習が行えたという意見があった。

上記のことから、様々な業務にはやはり「コミュニケーション能力が不可欠」であり、円滑な薬局実習を行う為には「人間関係の支えが不可欠」であるという結論に至った。

最後に『実習生の声』として、「良かった点」および「改善できる点」についてまとめた。議論では、薬局実習は主に調剤業務ばかりに偏ってしまうという意見が多かった。その他、SBOs の課題が多く実務が少なかったという意見や、薬局で対応できない SBOs はテキストで補ったがやはり実務で経験したかったという意見など、SBOs をテキストで行うのであれば学校と変わらず業務で経験した方が良いという意見が目立った。さらに、勉強会や学会に参加したかったが指導薬剤師の許可がなく参加できなかったという意見もあった。これらの事から、各学生の実習先の薬局によって実習内容が大きくバラついていることが分かった。その原因として、実務を経験できた学生はそれに対応している薬局であったこと、地域の薬局間でカバーし合えたことなどが挙げられた。その為、来年度以降は SBOs に対応していない内容のものは、他の薬局で補うなど、その地域全体でカバーし合えるようになると改善できるのではないかという結論となった。

以下は KJ 法で挙がった意見である。

≪様々な業務を経験できた≫

『地域との関わり』

「在宅」

- 在宅医療における薬剤師の役割
- 在宅を行っていなかった
- 在宅の見学（胃ろうの方）
- 在宅を体験できた

「連携」

- 病院との連携の重要性
- 病院との連携
- 門前病院の先生と連携がとれていない
- 薬歴管理

「OTC」

- OTC 実習
- OTC の服薬指導
- 販売（OTC etc）で“身近な存在に”！

『貴重な実務経験』

「見学」

- 卸の見学
- 当番薬局（？）
- 小児科医の診察の様子を見学させてもらった

「学校薬剤師」

- 学校薬剤師の同行（プール、水質検査）
- 学校薬剤師

「患者さんと多く話せた」

- 患者との距離が近い
- 患者さんと話す機会多し
- 患者さんから情報を得ることが難しい
- 服薬説明を多く体験できた
- 定期処方の患者さんと薬以外のお話ができた

「その他」

- 薬局製剤
- 集合研修
- MR さんに「MR について」を訊けた
- 薬の配達は結構大変
- 漢方薬の飲み合わせについて他の食との試食ができた

『勉強の重要性』

- 薬に関する最新の情報を常に入手する
- メーカーの勉強会
- 薬剤師の勉強会に参加できたこと
- 勉強会
- 商品名と一般名をしっかり対比させておく
- オスキーは使えないが CBT は多少使えた
- 実習終了後に全体で発表会
- 業務の中にも研究の芽が多くあること
- 薬以外に関する知識の必要性

≪人間の関係性を築く、それが「仕事」≫

「コミュニケーション能力が不可欠」

- コミュニケーション能力を必要とする
- サービス業であるということ
- コミュニケーションの必要性
- 世間話の能力が大切
- 高齢者とのコミュニケーション

「人間関係の支えが不可欠」

- 人間関係
- 一人薬剤師
- 薬剤師の先生方の仕事へのモチベーションの違い
- 色々な薬剤師さんがいて勉強になった
- 薬剤師の人柄
- ていねいに教えてくれた
- 学生は私一人だからこそ先生と向き合えた
- 薬剤師の先生方がとても優しかった
- ミスしても包みこむように教えてくれた
- オーナーさんに「邪魔になるとか思わんでいいよ」と言われた

≪実習生の声≫

「良かった点」

- 他学生との交流
- 間違いが許されないということ
- 薬局が忙しい時は自習→うまく時間を使えた
- 薬歴（手書き、PC 入力）の記入の大変さ

「改善できる点を発見！」

- 薬局が忙しくて一日中調剤の日があった
- 学生ではなく調剤助手？
- 調剤業務が多い
- コアカリ重視
- 対応できない SBO はテキストで行った。（学校と変わらず？）
- 指導薬剤師のフィードバックの不足
- 大学との連携
- 裏に入って課題やってても・・・
- 日報の作成
- もっと勉強会や学会に参加したかった
- マンネリ化することがあった
- ３週間を過ぎた頃から指導薬剤師も学生もお互いに疲れてくる
- 薬剤師の人間性に問題
- 小さな薬局で人間関係が大変
- 学生間の不仲
- 指導薬剤師が学生にばかりかまうことを不満に思う人もいた

**２．これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと**

**３．実務実習について学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと**

KJ 法による SGD 終了後、上記の二点についてグループ内で意見をまとめた。

司会係、記録係、発表係、発表資料作成係、報告書作成係を交代して議論を行った。各自が自由に意見を述べ、記録係がホワイトボードに記入した。

＜議論の経緯＞

KJ 法によるプロダクトのまとめが「コミュニケーション」を重視したものであったため、上記の二点のテーマについてもコミュニケーションに関わる発言が多かった。また、一方で薬局実習チームであったことから地域医療として在宅医療に関する発言も多々見られた。

意見は豊富に出たが、残り時間が少なく皆の意見を十分にまとめあげることができなかった。従って、各自の意見がほぼそのままプロダクトに反映された。途中、各自の意見に対して具体性を求める声も上がったが、グループとして具体性よりも抽象性を重視した結果、以下のようなプロダクトを作成した。

＜プロダクト＞

①これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

・ 薬の専門家になる(前提)
・ 積極的に意見を言える→チーム医療に関わる
・ 実習生に尊敬される→後進の育成
・ 地域に根差した薬剤師→在宅医療の充実、患者を診れる
・ 人と向き合える

②実務実習について学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

・ 大学の講義とのギャップ（専門用語、検査値、商品名と一般名の対比）
・ OSCE の意義、内容の検討
・ 同じ６年制卒として病院と薬局との連携を推進

【考察】

今回のワークショップにより、各地域の学生と情報を交換することができた。また、SGD により、学生の多数意見と少数意見を整理し、特に共通に認識していた事項についてまとめることができた。各学生が非常に充実した薬局実習を行っており、コミュニケーション能力が不可欠であるということを実感していることが明らかとなった。

「タスクフォースから学生へのメッセージ」

（日本大学　亀井美和子）

ⅡC 班の皆さん、討議に積極的に参加いただき有り難うございました。短時間でしたが、とても深く実務実習を振り返ることができたことを嬉しく思います。「薬局実習で印象に残ったこと」の議論では、ＯＴＣ薬、在宅医療、学校薬剤師などの実習した内容がたくさん挙げられましたが、良かったという意見とそうでない意見があり、良かったと感じる背景には指導者の存在が大きく影響していることを改めて感じました。また、皆さんが実習先で実習生（自分を含めて）が置かれた環境を分析し、実習先や大学への要望だけでなく、実習生の心構えとして必要なことも意見の中にたくさん出てきたことは素晴らしいと思いました。「私たちがこれからの実務実習を担っていくのだから・・・」という声も上がりましたね。縦割りではない連携のとれた実務実習のためには、実習を受けた皆さんが連携していくことが大切です。皆さんのこの想いが実現されることを期待しています！

# ⅡＤ班　報告書

## １．薬局実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

私達のグループでは出した意見をレールに、名札を駅にとしてプロダクトを作成しました。これは、すべての意見が１つに繋がっていると考えたからです。まず、実務実習で学んだことを起点とし、そこから発見したことや経験したトラブルを並べました。そして、これらを踏まえての改善点と私達の将来の展望へ繋げて行きました。また、実務実習の終了が私達のゴールではないので、「まだ旅は終わらない」と締めくくりました。

画像：「薬局実習で印象に残ったこと」のプロダクト

○ 印象に残った SBO

SBOs の範囲で印象に残っていたことについてまとめました。

- 計数調剤
- 在宅
- 他店舗の見学（8 店舗くらい）
- 検品
- 服薬指導が多くできた
- 服薬指導がたくさんできた
- 漢方薬への興味
- 学校薬剤師
- 学校薬剤師の仕事を経験できた
- OTC 薬の販売
- 軟膏剤の混合
- 妊婦への服薬指導
- 健康食品，サプリメント
- 総合病院前で様々な薬に触れられた
- 地域医療について学ぶことができた
- 夜間診療の見学
- 一包化

○ SBO 以外に学んだこと

薬局実務実習の SBOs に含まれていない事で印象に残ったものをまとめました。

- 卸への見学
- 卸の見学
- 勉強会
- 勉強会への参加
- 麻薬免許の更新
- 症例検討会
- 他学生との飲み会
- ドライブスルー受け渡しを体験
- 労災の書類を記入
- 訪問診断に同行したこと

○ 薬局業務においての発見

薬局業務を通して新しく発見したこと、驚いたことをまとめました。

- 漢方薬の販売が薬剤師中心
- 調剤機が豊富（分包機など）
- 薬局内の仕事だけでなく在宅など外の仕事もあった
- 分譲
- OSCE と現場とのやり方の差
- 病院よりも情報収集、勉強が重要な感じ
- 意外と薬理作用に詳しい
- 事務の方々の存在の大きさ
- 医療機器の貸し出し
- 薬局間の連携力がいい点

○ 患者さんと接しての発見

患者さんとのコミュニケーションを通しての発見をまとめました。

- 面薬局（とくにドラッグ）は処方箋枚数が少ない
- OTC 医薬品の選択の難しさ
- 患者さんの情報を把握している
- 慢性疾患の患者さんがメインで長い付き合い
- OTC に含まれる成分が分からない
- 処方解析の難しさを知った、楽しさも知った
- 患者さんが薬のこと以外の質問をしてくる
- 季節による違い
- 初回面談での接し方が難しい
- 天気が悪いと患者さんが極端に減る

○ 経験したトラブル

薬局実務実習中に起こったトラブルについてまとめました。

- 管理薬剤師さんと指導薬剤師さんの仲が悪かった
- 患者さんからのクレーム対応
- 話を聞いてくれない患者さんがいた
- 電子薬歴が壊れた

○　改善点　よりよい実務実習に向けて

今後、実務実習を行うに当たっての課題や改善方法をまとめました。

- 外部活動が多く、実習先での時間が少なかった
- 門前となってる病院によって様々な特徴が出てくる
- 小さい門前薬局だったが、意外と様々な科の処方箋を扱った
- 各種特徴のある単科クリニックの門前をローテーションさせる
- 帰宅時間の差
- 通学時間が長い
- 1 人はつらい
- OTC の種類が少なかった
- OTC が少なくて勉強の仕方が難しかった
- OTC の実習があまりなかった
- OTC 実習がほとんどなかった
- 薬局間で実習内容に差
- SBOs にとらわれて、なかなか実務ができない
- 薬局以外へ行く時の交通費
- 服薬指導をもう少し経験してみたかった

○　これから

将来、私達が薬剤師として働く際の課題や理想についてまとめました。

- 薬歴の書き方を統一する or しない
- 薬歴の書き方に差がある
- 地域との交流が盛んなイメージ
- 地域医療の担い手
- 健康相談とか地域のイベントへの進出
- かかりつけ薬局になるには
- 薬（薬局）－薬（病院）連携があまりできていない
- 保険のことは事務の人任せ

## ２．これから 6 年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

私たちのグループでは、薬局薬剤師にスポットをあて、大きく分けて以下の 2 点について取り組んでいきたいと考えた。

①　地域医療への取り組み

超高齢社会の日本の地域医療において、薬剤師の在宅医療への更なる介入、かかりつけ薬局の普及、薬薬連携の充実の 3 つについて取り組む必要があると薬局実習を通して感じた。

今後、更なる在宅医療の需要増加に伴い、薬剤師の更なる在宅医療に介入し、社会貢献していく必要があると考えた。街（地域）全体を病院とすると、道路が病院の廊下、家は病室、そして、ナースステーションは薬局と考えることができる。患者さんにとって、話しやすい環境づくりを目指すことが、かかりつけ薬局へとつながる。そのうえで、コミュニケーション能力の向上は必要不可欠であり、患者さんとのコミュニケーションだけでなく、他の医療従事者あるいは施設との連携も大事であると考えられる。特に、病院との薬薬連携においては、現在もそして今後も求められることだと思った。医師との協力体制を充実させ、知識を身につけることが重要である。それが処方提案にもつながる。薬のプロとして、医薬品だけでなく、サプリメントや OTC などの幅広い知識を身につけることが求められると考えた。

②　トータルサポートのできる薬剤師

薬剤師の役割として、薬を患者さんにお渡しするだけでなく、フィジカルアセスメントを行うことにより、薬剤師自身が治療効果のモニタリング、病態の評価を行い、フォローアップまでできる薬剤師を目指したい。

## ３．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

① 学ぶ≠仕事

私たち学生は新人ではなく、実務実習は新人研修ではない。“できること”を前提としないことを、薬剤師の先生方にもきちんと理解していただきたい。また、学生も、実習は学習の場であることを常に心がけ、何でも吸収しようと積極性に行うなど、学ぶにふさわしい態度で臨むべきである。

② 臨床現場での経験

実習の統一性を図るために SBO は必要であると考えられる。しかし、SBO はとても細かな小項目まで定められているため、その小項目をこなすために、座学で補うこともあった。学生にとって、臨床現場では、これまで学んできた知識をどのようにして、臨床現場に応用していくのか、あるいは、足りない知識は何であろうかと問題意識を持ちながら学ぶ、とても貴重な経験である。今後は SBO にとらわれるのではなく、SBO は大項目だけを定め、それに沿って柔軟に対応していただきだいと感じた。

③ 実習内容の統一化

実習生を受け入れる施設の差があるため、実務実習を終えて、学生間での差が大きいことが明らかとなった。例えば、服薬指導においては、全く行えなかった学生や多くの患者さんの服薬指導の経験ができた学生など、極端な差があることがわかった。患者さんの声は、座学では学ぶことができないため、臨床現場ならではの知識を増やすきっかけともなるので、服薬指導は最低件数を設定することで、学生間での統一性が図ることができるのではないかと考える。

日報・評価表の書き方、方法についても、全国で統一すべきであると思った。

④ 情報共有

実習先で、実習内容、指導済み SBO の情報共有ができていない施設があったため、施設内での情報交換をきちんと行っていただきたい。また、より実務実習を充実させるためには、医療機関・大学・学生の三者での情報共有はとても大切であると感じた。

⑤ 薬剤師像の明確化

薬学教育が 4 年制から 6 年制に変わった意義が私たち学生には、まだ明確に伝わりきっていないと思う。具体的に何ができるようになればいいか、あるいは、今、何をするべきかなどを提示して欲しいと思った。一方で、6 年制一期生である私たちが、手本となることで薬剤師像の明確化につながるのではないかと考えた。

**「タスクフォースから学生へのメッセージ」**

（昭和大学　中村明弘）

KJ 法の図式化で「カードで線路を作り、島の名札を駅にする」というアイデアが出てからは、グループ討議がどんどん盛り上がっていきましたね。6 年制一期生の実務実習を象徴する素晴らしい図式化で感心しました。今年度開通した「実務実習鉄道」を初めて走った皆さんの率直な感想・意見が枕木となって敷き詰められているのが印象的です。実務実習が終了したことに満足するのではなく、「まだ旅は終わらない」と締めくくった思いを大切にしてください。6 年制薬学教育課程の修了後、それぞれの進路で旅を続け、6 年制卒の薬剤師として新しいレールを敷いていくのは皆さんです。ⅡD 班として目標に掲げた「地域医療への取り組み」と「トータルサポートのできる薬剤師」は、まさに社会のニーズと一致しています。大学は異なっていても「実務実習」、「6 年制薬学教育課程」という共通の旅を経験した仲間同士が協力して、新しい薬剤師像を築いていってください。私たち大学教員も、「実務実習鉄道」の満足度を高めるよう努力すると共に、皆さんが社会に新しいレールを敷設していくのを全力でサポートしていきます。

# ⅡＥ班　報告書

## １．薬局実習を通して印象に残っていること（KJ法によるプロダクト）

ＫＪ法を用いて、「薬局実習を通して印象に残っていること」を整理しました。

私たちはまず、出てきた意見をＳＢＯの項目で分類して島を作ろうと考えました。すなわち、『服薬指導』『調剤』『在宅医療』などの島を作ろうとしました。しかし、例えば『在宅医療』の島で、「在宅医療の重要性を感じた」という札と「在宅に関することが説明だけで終わった」という札が隣に並ぶなど、メリットとデメリットが混在する結果となりました。これではＳＢＯの項目で分類しただけで、それぞれの意見が出てきた背景や理由で分類したことにならないと考えた私たちは、別の分け方を検討しました。

議論を重ねていくうちに、異なる意見が生まれる背景として、“薬局間で実習内容に差があったことが重要なのではないか”という考えが出てきました。薬局間で実習内容が異なっていたから、在宅医療に関わることのできた学生とできなかった学生が出てきて、学んだことに差が生まれ、「印象に残っていること」に差が生まれた。あるいは、服薬指導をたくさん経験できた薬局とできなかった薬局があったから、「同じ患者さんの経過を見れた」という学生と「先生の方針で服薬指導はほとんどできなかった」という学生が生まれ、札の内容に差が出た。そう考えた私たちは、『薬局間で実習内容に差があったので改善が必要だ』という島を中心に据え、残りの島を作っていきました。そうすると、最初はメリットとデメリットを一緒にしていましたが、経験できたことと経験できなかったことを分けるという方法を主として島が作られていきました。途中、どの島に分けるか迷った時は、その札を書いた学生に背景や理由を聞き、それを元に割り振りました。

結果、１３個の島と独立した札が３枚というプロダクトが出来上がりました。『薬局間で実習内容に差があったので改善が必要だ』というコアの島、メリットを挙げた８個の島、デメリットを挙げた３個の島、そして『薬剤師の立場を向上すべきだと思った』という島をつくりました。次にそれぞれの関係性を検討しました。

「地域における薬局の重要性が分かった」という独立した札がありましたが、それは『在宅医療の重要さを感じた』、『ＯＴＣ販売を経験して難しさを感じた』、『学校薬剤師を通して地域と関わる重要性を知れて良かった』、『ＭＲ・ＭＳや薬局外の人と関わって知識を深められた』ことで感じた印象だと私たちは結論づけ、その独立した札を４つの島から矢印を引くことで結びつけました。

また、患者さんとのやりとりに関して、良い面を挙げた島が２つと悪い面を挙げた島が１つあり、これらの関係性を構築しました。まず、服薬指導をたくさん出来たからこそ、服薬指導は難しいと感じたのだと考えた私たちは、『多くの患者さんを長期にわたって見られて良かった』という島から『服薬指導の難しさ』という島に矢印を引きました。そして、「モンスターペイシェント」や「料金不払いの患者さんへの対応」というデメリットが含まれる島は、服薬指導の難しさとリンクしていると考え、両方の島を相互矢印で結びました。

『実習のシステム面で改善してほしいこと』と『やりたかったけど出来ない内容があった』という島は、それぞれリンクしていると考え、相互矢印で結びました。

そして、「薬剤師は医師より立場が弱い」などの札が含まれる『薬剤師の立場を向上すべきだと思った』という島をどう扱うか、議論が交わされました。最初は、完全に独立した島だという意見もありました。しかし、コアから派生して様々な経験をした結果、地域における薬剤師の重要性を理解し、だからこそ薬剤師としての役割を十分に果たしていかなければならないと考えたの

ではないか、という意見にまとまりました。したがって私たちは、『薬剤師の立場を向上すべきだと思った』という島を、「地域における薬局の重要性が分かった」という独立した札とともに、全ての島のエンドポイントにあるものと位置付けました。

このような議論の結果、私たちⅡＥ班は以下のプロダクトを作成するにいたりました。

◇島およびそれぞれを構成する札

①　薬局間で実習内容に差があったので改善が必要だ

・グループの薬局に見学に回って、色々な薬局の特徴が見られた。
・実習先の薬局によって出来ることと出来ないことに差があった。
・学校薬剤師の活動が、自治体間で差が大きい。
・薬局によって、やれたこととやれないことの差が出た。
・薬局によって実習内容に差が出る。

②　調剤が患者さんの命に直接関わる事を実感した

・処方解析を興味のある薬から選んで行ったこと　・調剤のスキルが上がった。
・分包機への薬剤補充の際の入れ間違いの発生　・調剤ミスが怖かった

③　多くの患者さんを長期にわたってみられて良かった

・たくさんの患者さんの服薬指導ができた。
・一人の患者さんに何回も服薬指導できた。
・同じ患者さんの経過を見れた。　・服薬指導を早い段階からできた。
・担当の患者さんが二回目の服薬指導で覚えてくれていて、一回目よりもたくさん話せた。

④　服薬指導の難しさを実感した

・高齢の患者さんは説明を理解しているようでしていないことが多かった。
・情報提供の難しさを感じた（知識不足）　・
・患者さんは思わぬ服薬トラブルを起こすことに驚いた。
・死と隣り合わせで生きる方への服薬指導の難しさ
・親は子供の病気、薬に関して異常なほどに関心がある。
・患者に伝えなくてもよい副作用や情報があること
・忙しい時の患者さんへの対応が難しかった。
・患者さんへの情報提供の難しさを実感した。　・患者さんとの会話の大切さがわかった。

⑤　薬局運用に関わることを学べて良かった

・経営面に関しても勉強になった。　・在庫管理の重要性を実感した。

⑥　ＯＴＣ販売を経験して難しさを感じた

・ＯＴＣ販売を経験できた。　・ＯＴＣ販売の難しさが分かった。

⑦　ＭＲ・ＭＳや薬局外の人と関わって知識を深められた

・ＭＲの方による勉強会を多く実施してくれた。・地域の新人研修に参加して勉強になった。
・ＭＲ、ＭＳさんと話せて薬の流通が分かった。

⑧　在宅医療の重要さを感じた

・在宅医療を体験できた。　・薬剤師が在宅医療にもっと踏み込んで良いのでは？
・在宅医療の重要性を感じた。　・在宅の大変さが分かった。

⑨　学校薬剤師を通して地域と関わる重要性を知れて良かった

・学校薬剤師など地域との関わりが実感できた。　・学校薬剤師業務を経験できた。

⑩　対応が難しい患者さんがいて困った

・モンスターペイシェント　　・料金不払いの患者さんへの対応

・患者さんのクレーム対応の工夫

・処方せんのコピーをとって、医師にかかっていないのに薬をもらおうとする患者さんがいたという話を聞いた。

⑪　やりたかったけど出来ない内容があった

・ＯＴＣに関する実習がほとんどできなかった。

・ＯＴＣ薬の取り扱いをしていない薬局だった。

・先生の方針で服薬指導はほとんどできなかった。

・在宅に関することが説明だけで終わった。

⑫　実習のシステム面で改善してほしいこと

・実習時間が不規則だった。　　・実習中期まで評価をされなかった。

・通学が大変だった。　　・薬剤師の先生からのコメントが徐々に短文になっていった…。

⑬　薬剤師の立場を向上するべきだと思った

・薬剤師は医師より立場が弱い。　　・薬剤師さんと仲良くなって裏話が聞けた。

・治療や薬に関する悩みを、医師ではなく薬剤師に打ち明ける患者さんがいた

◇独立した札

❶商品名と一般名を必死で覚えた。

❷漢方の知識が増えた。

❸地域における薬局の重要性が分かった。

◇プロダクト

番号：前述の島および独立した札と対応

赤枠：メリット、青枠：デメリット、二重線枠：結論

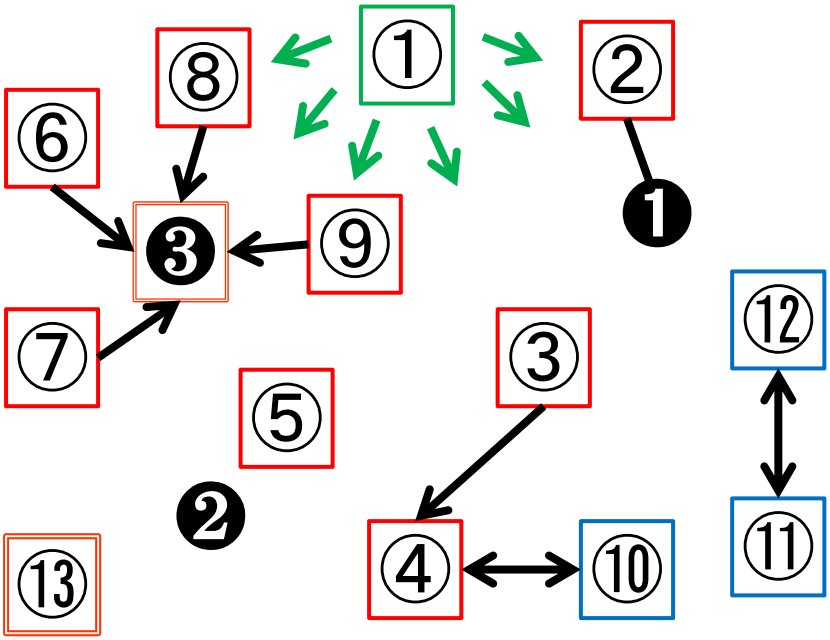
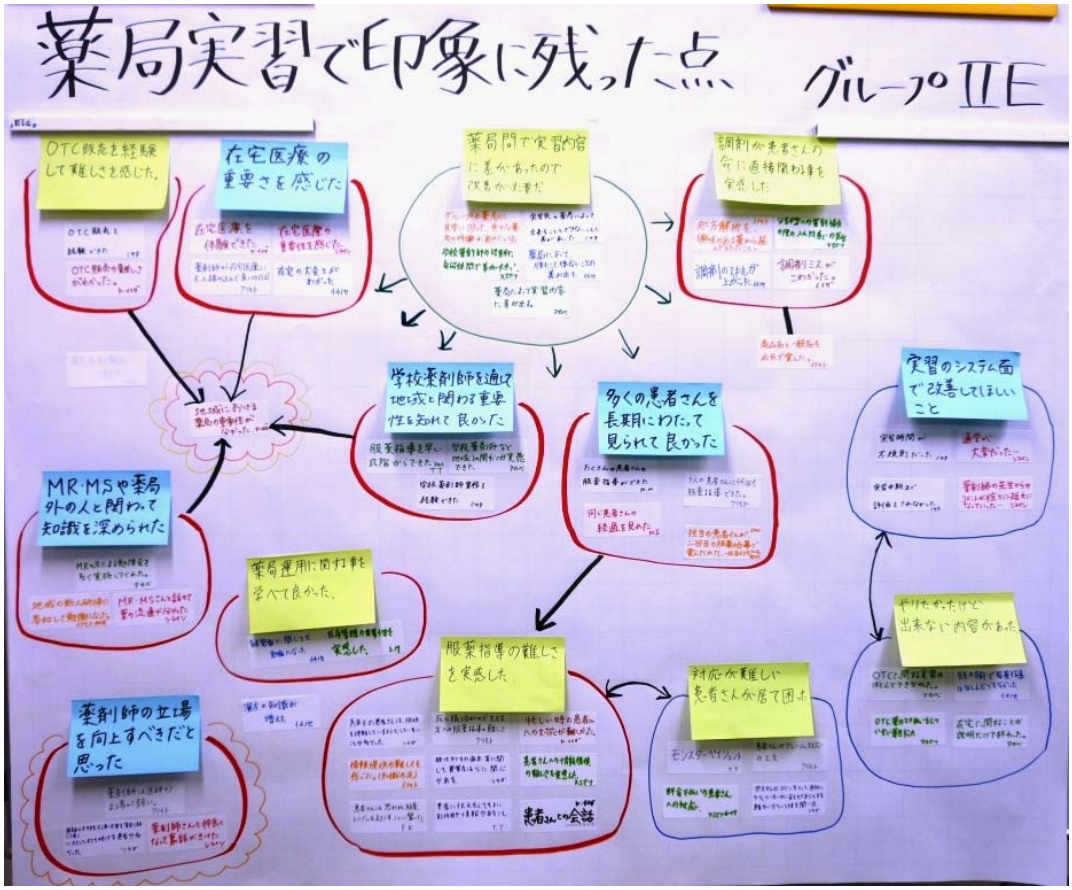



図　「薬局実習を通して印象に残っていること」ⅡＥ班プロダクト




## ２．これから６年制卒の薬剤師になって取り組んでいきたいこと

薬剤師になって取り組んでいきたいこととして、「実務実習を通して印象に残っていること」の項目で話題に上がった「薬剤師の地位向上のために」という点に注目して話し合いを行なった結果、主に以下の４つの意見が出ました。

１つ目は、「患者さんにとって、病院に行く前に薬局に足を運んでいただき、薬剤師に健康相談をしてもらえるような存在になりたい。」ということです。そのためには、薬剤師が積極的に地域医療に参加し、その仕事内容や知識を開示することや、地域の医院、介護施設などの施設と連携を行うことで、薬剤師の役割や存在意義をアピールしていくことが重要であると考えました。

２つ目は、医療現場の薬剤師の存在感を高めるということです。「薬剤師は薬のプロとして、医師に対し薬の使い方をＭＲ以上に説明できるくらいに勉強し、薬に関することはまず薬剤師に聞いてもらえる存在になりたい。」という意見が出ました。また、「医師に対して処方の提案ができる程の知識を身につけ、医療に貢献したい。」という考えも、共通意見として挙がりました。

３つ目は、「薬学教育を受ける段階から、他の医療系学部（医学部医学科や看護学科など）との繋がりを持ちたい。」という意見です。実務実習の段階から、他学部生と交流をもつことで、薬剤師について理解を深めてもらうとともに、自分達も早い段階からの医療チームの一員であることを意識することができるのではないかと考えました。

最後に、「私たちは６年制薬学部の第一期生として、今回の実務実習の経験を生かし、幅広い分野で活躍したい。」という意見です。長期実務実習を経験した私達だからこそ教えられることや相談に乗れることなどがあり、将来指導薬剤師として長期実務実習を活かした後輩指導が行えるのではないかと考えました。また、「将来の進路として薬剤師だけでなく、行政や企業を選択した場合でも、この長期実務実習での経験を活かしたい。」という意見が挙がりました。

## ３．実務実習について、学生、大学教員、指導薬剤師等に伝えたいこと

この項目では、議論の時間が少なくなっていたので、「実務実習を通して印象に残っていること」の項目で話題に上がった「実習システムの改善」を中心に話し合いました。

まず、指導薬剤師に伝えたいこととして、実習時間の明確化と、業務と実習のバランスを考えて指導をしていただきたいということが挙げられました。前者は、薬局の開局時間と閉局時間が不規則であり、毎日の実習時間が統一されずに不便を感じたため、実習の開始時刻と終了時刻を明確にしていただきたいという意見でした。後者は、忙しく働いている薬剤師の先生方に、質問や相談を行うタイミングがわからず、遠慮してしまう学生が多かったことから、もう少し、実習生の存在も考慮していただきたいという意見でした。

次に、指導薬剤師と大学教員に伝えたいこととして、評価基準を明確にし、評価方法を徹底していただきたいという意見が挙がりました。自己評価を行う際、学生のレベルで“できた”と評価すべきなのか、それとも新人薬剤師のレベルで“できた”と評価すべきなのかで難しい判断を強いられました。“まだまだかな”という項目を、控えめに自己評価をすると、“こんなに教えたのに、どう教えれば満足してよい評価をつけてくれるんだろう”と指導薬剤師から言われたことがあったり、逆に“できた”と思い良い評価をすると、“何をもってよい評価にしているのか”と言われたりしたこともありました。このようなことを防ぐために評価基準について、大学側がきちんと実習施設に説明していただきたいという意見でした。また、評価するタイミングも同様に改善をお願いしたいという意見もありました。実習中期まで評価してもらえない学生もおり、客観的な達成度が不明確で、実習に対するモチベーションが上がらないこともあったという意見でした。以上のことから、評価レベルと評価方法を明確にしていただきたいということです。

最後に、「実習施設を自分達で選択したい。」という意見が挙がりました。話し合いの結果、実習先の薬局によって、実習内容に差があることが一番の問題であると考えました（詳しくは KJ 法報告書参照）。各受け入れ薬局が、漢方を多く取り扱っている、OTC 販売を行っていない、在宅に力を入れている、などの情報を開示し、学生が自ら学びたいと思う薬局を希望し実習を行なうことで、より充実した実習を行えるのではないかと考えました。

**「タスクフォースから学生へのメッセージ」**

（京都薬科大学　橋詰　勉）

皆さんの議論を傍らで聞いていると、実務実習を真剣に履修されたことがよく分かりました。また、自己主張するだけに陥らず、他の方の意見にも耳を傾け、議論を進めていかれたことはすばらしかったです。これらの過程で発信されたメッセージは確かに受け取りました。特に、評価基準や方法については至急に解決すべき問題ですね。

既にお気づきだと思いますが、医療現場では先輩の薬剤師が頑張ってできていることと、まだまだ進めていかなければならないことがあります。実習中に薬剤師業務の「できていないこと」に幻滅するのではなく、薬剤師の責任を認識された上で、自分たちで職能を高めていこうとの姿勢は頼もしく感じました。実際に現場に出ると、その思いとは裏腹に壁に当たることがあると思います。そんな時には、「薬剤師が活躍すれば医療が向上する」との志を持って活躍されますように。その前に、あと一年しっかり勉強してください。